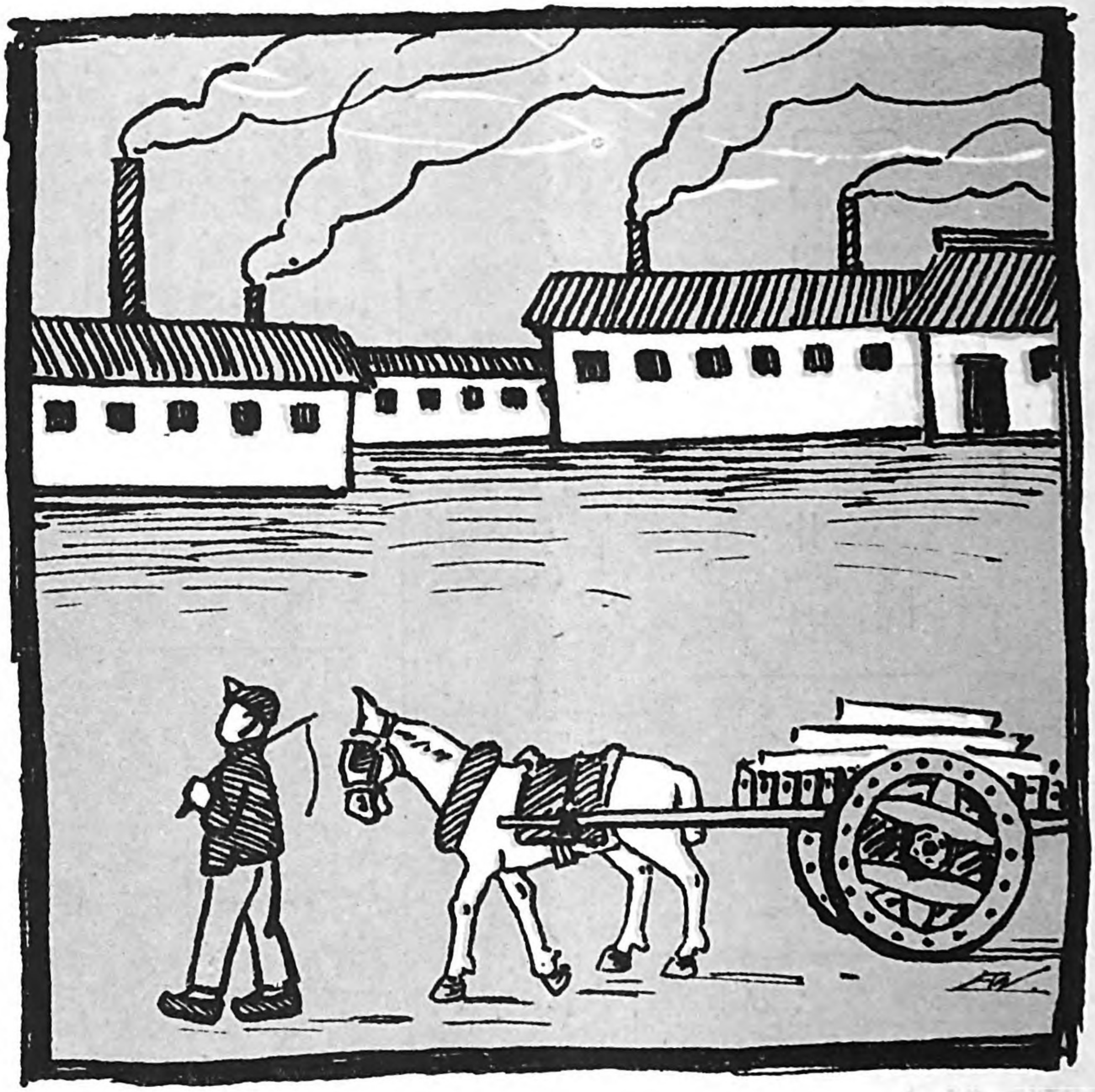
大正十二年三月一日發行（毎月[illegible]一日發行）

THE SOCIETY OF MANCHURIA

滿洲之社會



三月號

第壹卷第七號

滿洲之社會＝第壹巻第七號（大正十二年三月號）



科學と人間の生活

科學は種々の器具機械を生めり、器具機械は人間の生活を便利にせり、されど其れと同時に人間を驕奢、婬逸、惰弱、且神經質にせり。社會問題は要するに人間の生活苦を如何にして輕減すべき乎といふに歸着するも、機械的文明より生ずる煩雜冗漫なる物質的弊患に打克たざる限り、人間生活の眞の安定は望み難し。こゝに精神生活の必要が叫ばれ、生活を單純化せよと云ふ聲も起り、而して宗敎乃至哲學に對する憧憬心も起り來れる次第なり。

人は元來環境に左右され易き生物なるも、今日の人間は餘りに四圍の目まぐるしき機械的文明の推移に心を奪はれ易く、隨つて餘裕力に乏し。都市人の社會生活において殊に此弊多きを看る。彼等は四六時中孜々汲々として物質生活のために其の心力を勞苦し、天地正大の氣に觸れず、宗敎の神祕にも哲學の堂奥にも參加するの餘力を有せず。中流以下の人士は勿論、生活に餘裕ある上流階級の人士と雖も、多くは機械的文明の囚徒たるに庶幾し。

諸種の器具機械を生める科學は慥かに人間生活を便利にしたるも、科學によつて人間生活の安定を得難きことは今や已に明瞭となれり。當節流行の謂ゆる文化生活なるものも、科學にのみ立脚して哲學及び宗敎の醍醐味を加へざれば、虛飾、羸弱、贅澤となりて眞摯、剛健、質實の美風を喪失し、而して益々機械的文明の渦中に沒入し去るべし。社會問題と社會施設とは此點にも注意を加へ、餘りに複雜化せる人間生活の單純化を計らざる可らず。

滿洲之社會 第壹卷第七號 大正十二年三月發行

近代社會政策の眞意義

社會政策とは何ぞや。世人既にその意義を解するが如くにして而も猶ほ無理解のものが尠くない。今その社會政策の意義を最も單的に分り易く言へば、貧富の懸隔を調和し、勞資の爭鬪を緩和し、社會共存の理法に依り、社會連帶責任觀念を基調として、一般民衆のために其の精神的及び物質的生活の安定を策する事、それが社會政策の眞意義である。往時の社會政策は王者、貴族、僧侶、富豪等が仁慈的若くは申譯的に貧者、病者、老者等に對して鼻藥的施與をなすに過ぎなかつたが、近代の社會政策は左樣な生温い不徹底な消極的のものでは無い。歐洲における十八世紀の彼の産業革命以來、科學の進歩と共に諸種の機械器具が發明せられ、戸内工業が工場工業に移り、生産手段が全く一變し、各都市に大資本を擁する許多の工場が建設せられ、農業上の生産方法も商業上の取引手續もそれに伴れて變化し、都市といふ都市は商工都市となり、その商工業の發達と共に人口が都市に過群密集し、而してその結果は原始生産の農業にも著しい影響を及ぼした。英國の如きは商工業のために一時全く農業を閑却した程であつた。之を概稱して物質文明の進歩と云ふ

個人主義に出發したアダム•スミスやベンタム等の自由放任的經濟策論はその當時の權威であつた。然るに此の商工都市の繁榮と物質文明の進步とは、資本の集中と共に大資本家を作り、而してその資本家は昔時の王者、貴族、僧侶、或は封建時代の武士にも增した勢力家となり、その勢力增進は彼等をして竟に倨傲、尊大、我利橫暴の徒と化せしめ、都市に集中した大多數の民衆は一種の奴隷となつて其下に呻吟苦惱の生活を辿る樣になつた。黑奴や農奴を開放して更に新たなる奴隷を作つて了つたのだ。マルクスの唯物史觀は此點の眞理を闡明して遺憾なきものである

斯くて十九世紀中葉前後から時代は再び大回轉を開始し、個人主義より社會主義へ、社會主義より共產主義へ、共產主義より無政府主義へと思想の慌だしい轉換を見、十六世紀の佛國革命の原動力であつたルツソーの民約論が甦へり、各種の勞働團體が作られ、その勞働團體を聯結した聯盟團體も組織され、民衆の多數を占むる勞働者は結束して團體の力で資本家に對抗する樣になつた。ブルジヨアとプロレタリアとの經濟的爭覇戰は茲に開始せられ、政治上に社會黨が漸次優勢を加へ來り議會政策によつて此の不合理なる社會組織を改革せんとする一方において、同盟罷業を唯一の武器とする勞働團體の直接行動も激越となつて來た。佛國のサンジガリスト、獨逸のスパルタクス、米國のワイ•ダブリユー•ダブリユーの如きは其の最も過激なものである。農村にも地主對小作人の爭議が起り、それが漸次惡化し

來つて、此處にも有產階級と無產階級の爭覇戰が演ぜられる樣になつた。此の時代傾向を自然に放任して置くならば、落行く先は革命の外ないが、革命の結果果して人類及び民衆の利福を公平に增進する理想的社會が實現せらるゝか否かは、大なる疑問で、此點には愼重なる硏究を要するのである。近代の社會政策は此の疑問點に立ち而して此の疑問を解くべく餘りにバランスを失した不合理なる現代社會を漸進的秩序的に改造しようといふ極めて重大なる役目を持つものである。之を抽象的に言へば重味の勝つたものを引下げ重味の劣つたものを引上げるのが社會政策の任務である。更らに社會の本義から云へば、社會は元來相互依存の巷であつて所謂ソリダリテーを其の中核とし、之れに由つて其の社會的紐帶を緊密にすべきもので、單に之れを優勝劣敗の領域と視るは誤謬であるから、各人互に自我を抑ね私慾を制し、强者になつたとて强者の權利を振廻すやうな倨傲暴戾を愼み、弱者になつたとて小さくなつて徒らに悲觀絕望するが如き事なく、强者も弱者も、有產者も無產者も、資本家も勞働者も等しく全體の社會のために社會成員としての義務を竭し、その義務の履行と共に權利を主張する事にせねばならぬ。此の社會共存の理義を明かにし、社會連帶責任觀念を高め、互に相依り相扶け、鬪爭よりも協調を重んじ、それを基準として民衆の福利增進のために凡ゆる施設を講ずるのが近代社會政策の本義である。實際から云へば、中庸といふことは容易に期し難く、動搖

を不斷とする社會は孰れかの一方に傾き易いもので、現に社會の實相は資本家の方が勞働者よりも猶ほ遙に勢力を有し、ブルジヨアとプロレタリアとの間には大なる不均衡があり、富の分配も甚だ不公平で、貧富の懸隔歴然たるものがあるから社會政策は勢ひ中流階級以下のために其の精神的及び物質的生活の安定と向上を圖るに最善の努力を拂はねばならぬのである。同時に特權階級のためにヨリ多くの利便を與ふるが如き政治の仕方、經濟の組方、法律の編方は勉めて之を改める事にせねばならぬ。謂ゆる民衆化乃至社會化とは此の謂に外ならぬ。社會が今日の如く畸型的になつたのは、一は民衆の無自覺が原因で、民衆の無自覺を其儘に放任すれば、社會は益々不合理化し、その不合理化は民衆の心を惡化し、而して其の虛隙から過激思想や危險思想が黴菌の如く入込む處があるから、民衆の社會的敎育といふことも亦大切な問題である。此故に近代の社會政策は民衆の社會敎育に重きを措いてゐる。社會敎育、公民敎育、自治敎育は一般的のものであるが、民衆のための民衆敎育、例へば勞働大學の如き、獨逸の學術協會が建設したウラニアの如き白耳義の有名なるパレース・オブ・ピープルの如き、或は市民館乃至社會館の如きは、今後全力を注いで其の實現發達を圖る事にせねばならぬ。國民の社會心、公共心、自治心の殊に缺げてゐる我國においては社會敎育、公民敎育、自治敎育の普及に最も力を注ぐべきである。社會政策が此くの如く徹底的に行はるゝならば、貧富

の懸隔を調和し、勞資の爭鬪を緩和し、物質的文明の弊をも矯め、殺伐的に荒める人心をも和らげ、餘りにバランスを失した不合理なる現代社會を徐々に改造することが出來る。吾等はレヴオルチオンよりもレフオルマチオンを取る、急進よりも漸進を尊ぶ、破壞よりも建設を重んずる。革命は全的破壞であつて、其の全的破壞の後には混亂と饑餓と窮乏が打續き、新たに社會を建直す迄には相當の歲月を要するのみならず、下手をすると、却つて以前の社會よりも一層見惡い醜穢な社會を作ることになる。革命後の露國は近來幾何か建設時代に入つた樣だが、その前途は猶ほ疑問で、共產主義を金科玉條とする所謂ボリシエヴキーも、今日は之に資本主義を加味し、稱して國家資本主義と云ひ、或程度迄は個人の企業と商業の自由を許し、大分變化した所が見ゐる。露國に前古未曾有の突飛な革命が行はれたのは、帝制時代の政治が餘りに專制、獨裁、强壓、武斷に過ぎたからで、要するに極端が極端を生んだのだ。激し來る水勢を武力と法律とを以て組み立てた堤防で無理に堰き止めやうとすれば却つて益々水勢を激し而して竟には崩壞を招ぐに至るものだ社會政策は激し來る水勢に一道の疏水溝を開いて其の水勢を緩和するところの手段であるとも云へる。況んや萬世一系の皇室を戴きて君民同治を國體の精華とする我帝國においては、皇道則ち民衆道であるから、時代の趨向に鑑み、今後は内にも外にも徹底的に社會政策を遂行せねばならぬのである。(芙峰)

少年團と姙産婦

青少年少女の保護及び教養とその青少年少女を生む母たる婦人の保護は近代社會事業の一として重んぜられて居る▲歐米諸國には少年赤十字團があり普通の少年團もあつて是等は少年に對する社會的、公民的、自治的、市民的教養訓練に重きを措いてゐる▲日本には少年義勇團があるけれども之れは主として愛國的軍隊的訓練をなす事になつて居るので社會的教養訓練といふ事には甚だしく缺けたところがある▲そこで大日本赤十字社は昨年中少年赤十字團を組織する事になり同會の滋賀支部は其の六月に少年團發團式を擧げた是れ我國における少年赤十字團の嚆矢だ▲次いで山口支部にも設けられ山口支部の少年團も相當の好成績を擧げて居るといふ事で滿洲の赤十字大連支部でも大連に少年團を設ける計畫を進めて居る▲一方市の肝煎と大連奬學會の主唱により大連各小學校の生徒を推拔して普通の少年團を組織するの計畫もあると聞くが斯樣な計畫は寔に結構な事である▲我が滿洲社會事業研究會が發會式を擧げて間もない昨年の八月ごろ大連に兒童愛護の宣傳運動が行はれ兒童保護の社會施設が一歩を進め幼稚園や兒童遊園が整つて來たのは是れまた結構な次第であるが積極的に兒童を社會的に教養訓練する機關はない▲計畫中の少年團が出來れば卽ち其の機關が整ふわけだが兒童に關する社會施設は此外にもまだ澤山あるから益々研究し愈々實行する事にしたい▲少年團が出來れば其の社會的訓練によつて交通整理の如きは案外に成績を擧げ得るかも知れない歐米諸國の少年團は現に交通整理のうへに相當貢獻して居る▲少年團の目的は少年を社會的、自治的、公民的、市民的に教養訓練すると共にまだ色付かぬ少年の純なる心に正義、博愛、人道等の大精神をも植ゑ付けやうと云ふのだから極めて意義深いものだ▲所謂ボーイス・カウトの有効なること社會施設の一として價値の大なることは既に各國の認めたところで我國にもボーイス・カウトの聯盟組織が出來上る筈である▲次に青少年少女を生む母たる婦人の保護も社會事業の一として大いに努めなければ成らぬもので産院の如きはその社會施設として極めて必要なものだ▲併し此の問題には先づ胎兒教育といふ事から目醒めて姙婦を八箇月間靜かに長閑に保護する道を講ぜねばならぬ▲歐米諸國には姙婦保護協會や姙婦保護相談所の社會的機關があつて手廣く且親切に姙婦を世話すると共に胎兒教育のうへに何かと周到に骨を折つてゐる▲胎兒を大切にする事は卽ち出産を安全にする事でもあり其の胎兒を心的にも肉的にも健全にする事ともなるのである▲次には分娩期に入つた産婦の保護で之れは産院を設けるの外に道がないが産院ばかりでは經營が困難であらうから前記の姙婦保護所を初め保護婦養成所、育兒用具乳供給所、嬰兒哺育所などを兼營することにせねばなるまいと考へられる▲社會施設も國情と民風と土地の事情を參酌して能く實際の呼吸に合ふやうにしないと失敗するから此邊には注意を要する▲我國における嬰兒死亡、死産、産婦死亡率は歐米諸國に比して著しく高い殊に氣候風土の內地と異なる滿洲において別して然うであらうと思ふ▲大連市における日本人だけの出産率は一年に平均四千八百三十人で一日の平均出産が十三人弱となる相だが其の母子が總べて滿足であるかは蓋し問題だらう▲姙産婦保護の必要は此點から云つても明瞭であるが斯る社會施設は愼重に研究して實行する事にしたい結婚媒介所のやうに餘り燥急なことをしては成らぬ▲兒童の保護及び教養に關する社會施設や姙産婦保護の社會施設が整へば一般の社會思想も進むだらう。

黒風白雨

◆我等は陳勝呉廣の徒である常に世に先だつて憂へ又世に先んじて唱へ樣として居る◆言葉を換へて之を現代式に云へば我等は喇叭卒の如うなもので又自ら喇叭卒たることをも甘んじて居る◆社會問題の如きは別して主唱し先聲し而してその實行を促進せねばならぬものである◆況んや社會問題の研究も社會施設の實行も歐米に比して遲れて居る日本に於てをや又況んやそれが一層遲れて居り劣つて居る滿洲においておやだ◆杜鵑ではないが我等は八千八聲叫び續け得るだけ叫び續けて竟に血を吐いて死んでも厭はない覺悟を持ちたい◆筆や舌を以てする言論は算盤の桁に箝まるものでは無い併しその無形の力は強い◆明治の維新も賴山陽その他の勤王論者が筆に舌に絶へず呼號し續けて來た結果遂に機運熟達して成就したのだ◆革命といふ言葉は我等として用ひたくないが革新でも改善でも先づ之を唱へ之を傳ふるものが有つて始めて實行の緒に就く◆随つて眞の言論は常に世に先立たねばならぬ世の風潮に追隨し又は世の思惑を考へてするやうな言論は決して眞の言論と謂ふべきものでない◆近來は宣傳卽ちプロパカンダの世の中で何事も宣傳々々と言つて騷ぐやうになつた◆此の一事に徵しても言論の力の偉大なることが解るわけだが所謂プロパカンダの中には可なりな噓八百が混つて居て往々人を誤まることがある◆故に言論も能く薰蕕良匪を甄別して之を目睹耳聞する場合に眼光紙背に徹する底の用心がなくてはならぬ◆要するに言論は無形の力だ風の如く空氣の如きものだ秤器に懸けて何貫何匁といふ風にその重量が分るものではない◆我々人間は兎角有形の事に左右され易く隨つて物質的に傾き易い本能性を有つて居るので言論の眞價を認めるものが少いが我等陳勝呉廣の徒は何もそんな事に氣を腐らす必要はない◆八千八聲血を吐いて死ぬ覺悟で叫ぶべしだ勿論成敗利鈍を度外に措いて遣らねばならぬ◆勝てば官軍負くれ

ば賊軍とやらで人はまた兎角成敗の結果に依つて人と事との優劣を斷ずると云ふ惡い癖がある◆善因は善果を結び惡因は惡果を結ぶとすれば因果の關係は一絲紊れずで有らねばならぬ筈だが事實は必ずしもそうでない◆胡瓜の蔓に茄子が生つたり山芋が鰻に化けたり雀が鷹を生んだりすると云ふのは一つの譬ね話だが世の中のことには隨分と理外の理があるものだ◆だから單純に結果から判斷して動機の優劣、善惡、邪正を定めるのは危險だ◆若し成敗によつて優劣や善惡邪正の別を定めることになれば湊川に討死した楠正成は劣惡男子でまた四條畷に矢を全身に蝟の如く受けて同じく討死した其子正行も愚劣漢といふ事になる◆併しそんな道理はない若しそんな無理が通ふれば道理が引込んで社會は常闇となる◆海には波瀾が多く空には浮雲が飛び地には風雨が起ると同じやうに我々人間社會にも波風や浮雲の多いものだ◆常光明たる天日も爲めに暗く社會には種々の邪惡が跋扈して正義と眞理と人道を曇らす◆それと闘つて正義と眞理と人道の光を顯はすべく努めるのが眞の義人正人で社會問題の研究も社會施設の實行も義人正人の心を持つことが第一だ◆義人正人は身命を犧牲に供し成敗利鈍を度外に措いて誠意誠心只懸命に是れ努める◆一代で成らなければ化を子孫後昆に垂れて飽くまで靈魂を連續させる彼等の靈魂は確かに不死不滅である◆正成はその子正行に衣鉢を傳へ願くば七たび人間に生まれて此の國賊を亡ぼさんと言つた◆妖雲を排して天日を現ずるが爲めには此位な執着力がなくてはならぬ勿論それは蛇のやうな女の執着心とは別物だ◆惡貨進んで良貨退くと云ふグレシャムの經濟的方則は社會の上にも歴然と行はれて居る◆個人が心中の賊たる閑思雜慮を征服して良智の光を顯はすにも相當骨の折れる事だから況んや社會上の破邪顯正は並々の努力では出來ない◆殪れて而して後已まんの決心を以て當らねばならぬ光は不滅だ邪惡の雲と闘つて撓まずんば何時かは光が射さう。

近代的都市計畫



國際田園都市計畫協會々員　黑谷了太郎

元來都市計畫なるものは時代に依りて要件を異にして居るので、其の趣も從つて相違して居り、最初は市民一般の安全の爲めに計畫せられたものも、帝國や王國の現出以來は帝王や貴族の裝飾の爲めに施行せられること丶なつた。希臘に於ては非常に「デモクラテック」的な都市計畫が行はれた時代もあつたが、羅馬帝國が現出してから十八世紀までは主として君主や貴族の利益の爲めに計圖せられ、十九世紀の產業萬能時代は主として富豪や事業家の金儲のために計畫せられて居た。元來都市なるものは貴族や富豪の專有物ではなく、市民一同の利福のために出來たもので、市民一同の生活のために計畫せられなければならぬものであつて、時代は今や其處に進んで來た。市民一同が城壁がなければ生活の安全を期することが出來ないときは城壁を作るも宜しい。市民一同が道路の狹いので苦んで居れば道路を擴げるも宜しい。市民一同が公園や運動場がなくて困つて居るならば其の計畫をしなければならぬ。市民一同が家屋が拂底して苦んで居るならば住宅計畫を立てねばならぬ。兎に角その時代々々の要求に應じ、將來の要求を見越して、之に對應する都市的

施設を案出するのが都市計畫である。要するに市民一同の幸福を増進するのが近代都市計畫の目的とするところであつて一部階級の利益のために計畫するのは時代後れである。

市民の幸福を増進する方法として、日本に於ては交通、衞生、保安、經濟等に關し重要なる施設をなすべき計畫を都市計畫と云ふとあるが、我々の生活に於て何が最も大切であるかと云ふことを想へば、都市計畫の種類に就ても其の計畫の順序に就ても自から分るであらうと思ふ。抑も人間は生存權の外に何を要求するかと云へば先づ安全を欲し、次に病に罹らぬ樣にして長生をし度いと思ひ、此の基礎的要求が充たされるならば、其の次には成るべく便利ならんことを求め、また氣持の宜からんことを望み、而して是等の要求が充たされるならば更に進んで文化を要求する。斯くして都市計畫の五大要件と云ふものが出來る。今家屋について之を見るに、何人も第一に安全を希ふ、風が吹いたら直ぐ倒れる樣であつてはならぬ、第二に衞生的ならんことを欲する、濕地を嫌ふのは當然である、そして生活上便利な設計を求め、而して經濟的ならんことを希望する、女中二三人も使はねば掃除が出來ぬと云ふ樣な不經濟な家は宜しくない、居心地が好くて家族打揃つて樂しく暮せるやうな家、勉强の出來る家、書齋として適當なる設備の出來る家屋を要求するのであるが、都市としても同然である。何となれば都市あつての人間ではなく人間あつての都市であるからだ。過れる都市計畫家の中には都市あつての人間のやうに考へ、都市の人間は不自然を我慢しなければならぬとか都市に住んで居る以上は狹苦しい家に入るのは當然だとか云つて、人間のための都市ではなく都市のための人間である樣に考へて居るものもあるが、之れは飛んでもない大間違ひである。人間の要求殊に多數を占むる市民の要求に應じて都市計畫を樹てるのが近代都市計畫の眞の目的である。

第一は安全 卽ち生活の安全は都市成立の原因でもあり最重要なる要件でもある。今は昔と異なり外

敵に襲はるゝこともなく、また支那を除いては土匪や馬賊のやうなものゝ襲撃を受くることもないので、城壁を廻らす程の不安はなくなつたが、併し近代都市は色々の危險に曝されて居るのである。此の危險は外敵の襲撃又は匪賊の襲來の如く急性的でない爲め世人の注意を喚起しないが其實今日の都市には隨分危險もあり不安もあるのである。先づ第一に今日の都市は流行病の巣窟であつて又その養育場である。第二に今日の都市は乞食や犯罪者の溜り場所である。其他種々の危險と不安がある。此等の危險又は不安に就いて都市計畫家は充分の注意を拂ひ而して十分に其の改善を企圖しなければならぬ。また是迄の都市には居住に何等の危險がなかつたものが、產業萬能時代となつてから、隣に工場が出來て火を焚いたりガタ〳〵機械を運轉されて夜も安眠することが出來ないといふ有樣、それから處嫌はず商店を開いて危險物を取扱はれるので不安に堪へない。之に就ては都市計畫は地域とか地區制を設けて成るべく安全を保證しなければならぬ。併し是等よりもヨリ根本なるは住宅問題である。住宅問題は世界各都市の大問題で、群衆が都市に殺倒して盛んに住宅を求めるので、住むに家なきものが出來、一度追ひ立てられると代りの住宅を發見することが中々困難であつて、遂に間借生活にまで落込んでしまひ、而して家賃はどし〳〵上げられる。居住に就ての安全は少しも得られない。それで外國の都市計畫に於ては特に此點を慮つて大々的に住宅計畫を立てゝ居るが、日本の都市計畫は住宅よりも先づ運河であると云ふ樣な十九世紀の思想が勝を制して居る爲め、近代都市計畫中の一番重大な此の住宅問題の解決が困難のやうに見受けられる。

第二は衞生保健で、之れは都市計畫上最も重要なる要件であるが、從來の都市に於ては人間が消耗品の如く取扱はれて居つたのみならず、家屋も今日の如く密集して居らず、結核其他の細菌も今日の如く繁殖して居なかつた爲め、健康と云ふことが大事なものとせられて居ても、今日の如く衞生保健の問題が痛

切に感知せられなかつた。然るに國家が強くなるのも都市が繁榮するのも畢竟するところ活動力如何の問題で、活動力は健康の賚ものであり、文化の進歩も、産業の發達も、總て人間の健康と比例するため、今日西洋においては科學的經營法が流行し、生産額が職工の健康と多大なる關係を有することが發見せられて以來西洋の工場に於ては工場衞生は勿論、職工の衞生保健に就いても多大の注意を拂ひ、エツヂソンのグルツブやポートサンライトの石鹸工場や、ボンヴヰールの「チヨコレート」工場を初めとし、覺醒した工場經營家殊に米國の其れは職工の爲めに理想的の住宅地を建設して衞生其他の幸福增進に有效なる施設をして居る。健康は啻に生産の基礎である許りでなく、都市繁榮の基礎であり、個人の幸福の基礎であり、同時にまた社會の幸福を增進する根抵で、市民が悉く壯健で盛に活動したならば都市の發展しない理由はない。然るに今日の都市を見ると寒心せざるを得ないものがある。何となれば市民の健康は年と共に衰へて活動力は漸次減少しつゝあるからである。都市に産れた幼兒は概して青白く血色に乏しい、都市の少年は多く小學校を終るまでに死んでしまう、都市生活者の多數は結核や神經衰弱の如き都市病に倒れる、是等の例に徵し見るも、社會上最も重要なる活動力が都市に於て如何に衰頽しつゝあるかを知るべく、既に之れを知つたならば、無神經のものでない限り、何人も悚然として寒心せぬものはないであらう。

是れ抑々何の爲めであらう乎。家屋が餘りに密集する結果として戸外に於ての活潑なる運動場所がなくなつたのも一つの原因であるが、要するに家屋が窮窟になつて充分に身を寛ろくことが出來ず、慰安が全く得られなくなつたのみならず、新鮮なる空氣を吸ひ赫々たる日光を仰ぐことも出來ず、動物園の熊の如く檻のやうな家に蟄居しなければならぬ様になつたからである。此の間隙に乘じて黴菌が得たり賢しと繁殖して人間を喰ひ殺すのである。猶ほ都市に於ては交通が頻繁となつて塵埃と共に黴菌が運ばれ、工場に依りては有

毒瓦斯やら有害なる廢液やらを排出するので、左なきだに不衞生なる都市をして一層不衞生ならしめ、啻に人間の健康を損ふのみならず、併せてその生命を短縮する。之を救ふは都市計畫の最大使命と稱しても宜しいのである。其の方法としては、地域地區制に依りて工場と住宅とを分離することを考究したり、運動場や公園を計畫施設したり、家屋の密集を防禦したりする。西洋の田園都市に於ては一英町につき八戸乃至十三戸以上を建てない様にして居り、他の都市に於ても甲の地區は十戸、乙の地區は二十戸と制限したり、また住宅は建物面積の二倍の空地を保留しなければならぬと云ふやうな規定をも設け、住宅以外の建物でも建物面積と同一の空地を保存せよと命じて居る。日本に於ては住宅が面積の十分の四の空地を持てば宜しいと云つて居るが、斯んなことでは到底都市の保健は望まれぬのである。

第三は便利と云ふことで、これも都市計畫上重要の件なることは日本においても多く知られて居り殆んど之れのみに依りて都市が計畫せらるゝものゝ如くに考へて居る人もある。道路、鐵道、軌道、運河等皆之れより發足したものである。故に之に就ては精しく述ぶることを省略するが、便利と云ふことは不便利を伴ふもので、餘り一方の便利を主として他方の利益を犧牲に供するときは、却つて不便利になるのみならず害毒を流すことがあるから能く注意せねばならぬ。鐵道や運河でも都市に接近したる部分は善く各方面の利害を考へて施設しなくてはならない。殊に新堀川のやうに汚くて臭いものは衞生に害あること論を俟たないから最も注意を要する。又便利〳〵と云つて紐育のマンハッタンや東京の丸ノ内の樣に交通の中心を中心地區として總ての機關をそこに集中したならば、二進も三進も行かなくなり、電車が幾らあつても乘ることが出來ず、一時間も二時間も立往生しなければならぬと云ふ不便が出來る。便利と云ふことも程度を過ぎると此くの如く不便となる。そこで西洋に於ては都市の便利不便利といふ事については篤と比較研究すべきこと

とゝなつて居るが日本に於ては果してどうであるか私にはよく分らない。

産業革命以前の都市は相當慰安的であつたが、產業時代となつてから、都市の一部は特種階級の要求を充たす爲めに美化され、主要道路は美觀を增し、公園の如きも非常に綺麗になつたけれども、市民の大部分は之が爲めに却つて慰安を失ふことゝなつた。一部の人は都市から拔け出して郊外に大きな邸宅を築き、其處に充分な慰安を求めることが出來るかも知れないが、大多數の市民は裏店に蟄居を餘儀なくされ、而して其處には慰安も慰藉も容易に得られず、淸らかな空氣も活々とした日光も來らず、美しい花も綠したゝる木の葉も觀られない。結局は酒や「トランプ」で鬱を散するより外に方法がない。之は社會上決して好ましいことではない。故に各人に適當の慰安を與へる樣に各戶に空地を保留し、其處に庭園趣味なり園藝趣味なりを與ね、さうして家族團欒の樂みの出來るやうにして遣らねばならぬ。是れ近代都市計畫の精神である。又一週間に一回、二週間に一回位、廣廣とした自然の景色にも接近せしめ、其處に思ひ入れ樂ましむる樣に設備する必要がある。公園や公園道路の計畫がそれである。此等は十九世紀の都市計畫のやうに旅人に誇る爲めのものではなく主として市民の慰藉に供する爲めのものである。風致地區や美觀地區も亦此の要件に基いて計畫せらるべきものだ。劇場其の他の興業物に就いても、都市計畫上大いに考慮すべきものとなつて居るから、希臘都市に於けるが如く此等が公共事業として經營せらるゝ樣になつたならば非常に宜しいことであらうが、今日の日本に於ては餘りに多くを期待することが出來ない。併し都市計畫としては兎も角も市民をして出來るだけ氣持好く住はしめ又出來るだけ氣持好く且樂しく働かせる樣になければならぬのである。

第五は文化的である。元來都市は文明の母であつて、都市がなければ文明がなく、都市があつた

爲めに吾人が互に切磋し琢磨して文化的になつたのである。之は文明（シヴヰリシヨン）とか「ミヤビヤカ」とか云ふ言葉の出所から見ても甚だ明白である。今日に於ても都市の表面上卽ち上層に於ては文化的に見ゐる所がある。又大學の所在都市乃至は社會奉仕者の多い都市に於ては空氣が自ら異つて文化的な方面の多いことも事實である然るに都市の大多數を占むる下層の基礎的市民の中には文化は決して普及して居らぬのみならず、農村にも見るべからざる非文化の風が漲つて居るので、市民を向上せしむるよりも墮落に導く場合が少くない。之れでは都市としての價値も都市生活の價値も全くない譯である。されば苟も都市をして都市本來の價値を發揮せしむるには是非とも文化的でなければならぬこと勿論である。之が爲めには學務當局が學校を中心として文化運動をなすことも必要であるが、都市計畫としても社會的に市民を向上せしむべく敎育の中心なり藝術の中心を設けて向上の機會を得せしむるの要あるは勿論、更らに進んでは慰安的要件とも關聯して風致地區などの設定をも爲さねばならぬのである。藝術的な建物や民衆的な公會堂や野外集會場や大小の運動場を設くることは此の見地から見て甚だ必要なことゝ謂はなければならぬ。

都市計畫殊に近代都市計畫は先つ以て敍上の五大要件を充たす様にせねばならぬのであるが、然らばどう云ふ風にして此の要件を充たすかと云ふと、之れは參謀本部が作戰計畫を立てる様に先づ以て調査を必要とする。我々は之を「シヴヰックサーヴエー」と稱して居るが之れは市の歷史なり人口なり經濟なり各種の狀態を調査したり測量したりすることである。委員會に於て一生懸命に測量して地圖を造つて居るのも其の一つである。其他建物の分布やら商工業のことやら交通のことやらを調査して居るのも其の一部をやつて居るのである。元來都市計畫なるものは右の測量や調査が濟んでから着手するのが順序であるけれども、日本のは變則であつて、調査もせずに計畫を立てる様になつて居る。大勢觀察でやれば宜しいと云つて居る。若し

都市計畫なるものが臨機應變的の手鍊手管であるならば其れでも宜いかも知れないが、最新式の都市計畫なるものは一種の科學であつて、各種の材料を基礎として論理的に研究せられた結果でなければならぬ。百年の大計を立てるものとすれば左樣でなければならぬ譯である。然るに日本の是迄の都市計畫は唯々特種の技術家が謂ゆる大勢觀察でやつたものが多い。之が果して宜いか否かは疑問である。

不良青少年少女と其善導

警察彙報主幹　池内勝里

私は昨年十一月號の本誌に於て兒童保護の必要を論じた際に、不良青少年少女の事に付いても一言して置いたが、此問題は社會的に重大な關係を有つて居るのであつて、既に日本にも少年審判と少年矯正の扉が開かれたから、重ねて之を詳論し、識者の一考に煩したいのである。

爛熟しきつた現代の所謂文化に胚胎された都市の裏面なるものは、恰も歡樂郷にあらずんば誘惑境の觀がある、特に植民地に於ては斯うして場面がより多く而も露骨に展開されて居る樣に思はれる。生活の懊惱から逃れて刹那の慰安を求めやうとして、不識不知の間に紅燈緑酒に親しみ、遂に不良的行爲を敢てするに至るものが何んなに多い事であらう。況して青春の血鬱勃として抑ね切れない青少年少女が誘惑の末、耽溺の結果、不良的に陷ることが如何に多いかは想察に難くない、ヨシそこに何等犯罪的の行爲がなくとも、他の善良なる生活を破壞し、自らの前途をも誤るものである以上、それを社會として放任することは絶對に出來ない。之を放任すれば、彼等をして益々墮落せしめ、竟には社會の公安を紊し秩序を破るに至ることは餘り

に明かな事實である。これ近代の國家が頻りに各種の調査研究を遂げその遷善改過に腐心して居る次第であるが、斯る大問題は獨り國家にのみ一任すべきでなく、社會全體が共同に其責任を負擔し、倶に與に感化善導に努力すべきもので、斯くして亦始めて效果の徹底を期し得られるのである。

不良行爲の意義　不良行爲と謂ふのは、法律的であると道德的であるとを問はず、社會の規準を犯し其の軌範に背くところの行爲その者を指すのであつて、此の反社會的行爲をなす兒童を所謂不良青少年少女と名づけるのである。これは勿論行爲の上から觀たものであるが、精神的方面に於ける本態を知る事がより多く必要である、換言すれば、不良行爲を敢てする青少年少女の精神狀態を知る事である。蓋し行爲と精神狀態とを併せ知つて根本から彼等を善導しなければ完全なる功果を擧げられないからである。けれども此方面の觀察は醫學の範圍内にまで進むので、それに對する智識のない私は先づ一般的、常識的推考によつて彼等の精神狀態を區分して見たいと思ふ。然うするとそれは大凡次の通りである。

(一)、意思の薄弱に基因するもの

(二)、道德的の缺陷に基因するもの

(三)、感情性に基因するもの

(一)意思の薄弱に基因するもの　之は低腦や精神缺陷者のみの所有ではなく、智能的にも感情的にも可なり發達して居る者にもあるので、世上此種の人間が頗る多い。此種の兒童の缺點とする所は主として意思が薄弱な點にある。旣に意思が薄弱だから、從つて自制力に乏しく、如何なる仕事に向つても不熱心で、而も注意力を缺ぐため、困難なる事業や規律的の業務に從事することが出來ない。その結果不良行爲を敢てするに至るのである。縱令叱責されても、訓戒を受けても、意思が薄弱であるから眞に悔悟することなく、兩親や

先輩や知人が當人のためを思ふて親切に戒めても、之を馬耳東風と聞き流し、再び以前の不良行爲を繰返すのであつて、感化院などに收容せらるゝ彼等の大部分は此種に屬するものである。

(二)道德的の缺陷に基因するもの　此種の甚しきものになると以前は道德狂として一種の病名を附與して居た程である。主として感情方面の缺陷に基くものであつて、此種の兒童は性來不從順にして激し易く、而も慘虐性に富み、報復心が強く、從つて自然の慾望によらずして故意に他人の所有物を竊取し、或は他人を毆打してその苦しむのを見て快とする樣な癖もある。勿論學業に趣味を有せず、怠惰にして虛言を好むといふ風であるから、父兄や敎師の一片の訓戒では效果がない。訓戒すれば寧ろ反抗の態度を示し、萬一自分の目的が達せられたとすれば、爾後屢々之を繰返し、遂に公然と不良事を爲すに至るのである。又醫說によれば此種の兒童は極めて早熟で、小慧しく、大人も及ばぬ位に細心な注意力を有し、小學校時代に於て已に春を解し、異性若くば同性に對して猥褻な行爲をなすと謂ふ事である。

(三)感情性に基因するもの　此種のものは外界の刺戟若くば何等かの衝動によつて感情が常に變化するので往々突飛な行爲に出づることが珍らしくない。學校の成績も概して不良で、父兄や敎師の手數を煩すことが多く、そして或場合には自分を餘程豪いものゝ樣に考へ、また或場合には急に自分一人が他の總てから排斥されて居るやうに感じて悲觀したりする。此種の兒童は氣分が絕えず變るので、職業も常に變換するのみならず、感情の激動に任せて事を決行し、遂に犯罪行爲をなすに至るのである。

以上は私の素人觀察による分類であつて、之を專門的に觀察したならば、尙より多くに分類され、より多く徹底したる考察を敍述し得らるゝ事と思ふのであるが、兎も角も斯樣の兒童が增加したり又存在するといふ事は、國家の存立を危くし、社會の公安を妨げ、種族の滅亡を招くものである。然らば斯る精神上の缺陷

を有する兒童乃至青少年少女は如何にして生れたか、遺傳的であるか、先天的であるか、之を究むることは第二の重大な問題で、續いて此が發生の豫防方法を講することゝ更に發生したものを善化して再び反社會的の行爲を爲さしめぬ樣にすることが第三の重大問題である。

不良青少年少女の發生原因は種々雜多であるが、之を約して云へば、要するに遺傳的のものと環境的によるものとの二ッに別たれ得るのである。

(A)**遺傳的のもの**　之は云ふ迄もなく其の原因が遺傳性から來て居るもので、即ち幾代かの父祖によつて傳はる種々なる不良分子が親の生殖細胞中に潛入して居て、それが其の兒童の血液中へ移植されたのである。父が非常の大酒であつたり、若くば花柳病に冒されて居たり、或は又母親が多情であつたりした爲め不具畸型又は精神的缺陷を有する兒童が生れ出ることがある。此の遺傳的のものを一面先天的不良兒童とも稱することになつて居るが、此種の兒童を矯正感化することは頗る至難で、適切な方法のない爲め、現今では反社會的行爲をなさしめぬ樣に消極的の保護法をとつて居るのが多い。

(B)**環境的のもの**　不良青少年少女を生ずる原因の大半は此環境に因るのである。今日各國が競ふて之等不良兒の保護に努力するのも畢竟社會的原因を除去せうとする爲である。之を大戰中の英國に付いて見るに、ロンドン警視廳管內で十四歲以下の少年犯罪者が一千九百十四年に一千七百餘人であつたのが、二年後の一千九百十六年には或一區のみで二千人といふ驚くべき數に達した。これが原因は父は戰場に母は工場其他に行つて家には彼等を善導する監督者がなかつた結果であると言明されて居る。之に對してマンチエスター市の當局は、兩親が子に對して親の權威を保たない事、親が子の失策に對して加罰せざる事、家庭に適當なる監督者なき事等を指摘して居る。社會の內容が紊亂し其の環境が醜惡となれば此の種の兒童が殖ゐる

環境によるものは更に之を社會的、學校的、家庭的の三ッに區別することが出來る。

家庭的關係

家庭は各人によつて異る、例ねば兩親若しくば其の一方の缺けたるもの、嚴格なるもの、冷酷なるもの、陰險なるもの、無趣味のもの、緩漫なるもの、紊亂せるもの、寂寞なるもの等、千態萬様である。然して家庭はいふまでもなく人生の慰安場であり、人の性格の培養所であるから、其家庭に何か缺陷があれば、そこに養育されて行く兒童が完全なものである筈がない。一家族の生活が圓滿で兒童に對する總ての理解もある平和な家庭からは滅多に不良兒が輩出しない。若しあるとすれば、それは遺傳によるか、或は社會的によるものである。そこで如何なる家庭が不良兒を多く出すかといふと、兩親若くば其の一方が缺けて溫かい親の手で育てられなかつた場合、家庭がいつも暗くて病人が居たり家族の間に秘密があつたりする場合、兩親が餘りに兒童に對して嚴格に失する爲め自ら畏縮性に陷ると共に自由を求めてやまざるに至る場合、一家に秩序なく平和を缺ぐとき、例ねば父が遊廓或は待合に出入し又は妾を蓄ふる抔して常に兩親の間に爭鬪絶ねざる場合、兒童に對して何等娛樂又は慰安となるべきものを施設せず或は與ねざる場合等、擧ぐれば際限ないが、何れにしても家庭に於ける組織が秩序と眞實とを缺ぎ、虛榮虛飾に趨り、兒童の敎育及び愛護を等閑に附した結果である。今日の家庭で父母自らが敎師となつて兒童を敎育し居るもの幾何あるか更に結婚して子を生み母となり父となり或は家庭を造つた場合に於ける夫婦の態度と云つたやうな所謂科學的智識を有して兒童を育英しつゝあるもの幾許あらうか。上流の家庭にあつては兒童の敎養保護を多くは女中や書生に一任せしめて居る。彼等は敎養に付て何等の責任感なき爲め往々不良なる行爲を敎へる事すらある。之れで何うして自分の愛兒が完全に敎養され行こうぞ。斯くては不良兒にならぬまでも、完全な兒童は得られぬのである。世上に曝露さるゝ上流家庭の紊亂さを見るとき、そこに循環的の悲むべき事實が限りな

く多種多様に潜在することを私は發見するのである。

學校的關係　私は今日の學校教育の缺陷が原因となつて不良兒を生んだと云ふ適確な事例を知らぬけれども、家庭の教養と相俟つて、學校の青少年少女に對する保護は等閑に付し得られないことゝ思ふ。殊に父母の膝下を離れて幾年も寄宿舍生活を爲すものにありては學校の保護監督が重大な關係を有つものである學校の教育法が智育にのみ重きを置いて德育を輕視し、或は生徒の個性を顧みずして同一のタイプに嵌入せしめやうとすれば、その學校の生徒から不良兒が發生せぬとも限らないのであるから、教育上又は生徒の監督上、此點は教師の常に愼重なる考察と警戒とを要することゝ信ずる。

社會的關係　時代の推移と社會の變遷も影響する處が多い。封建時代の昔時にあつては武術とか柔道とかの硬的教育が行はれ、廉耻とか質素とかを尊ぶ風が一般に行渡つてゐたが、社會が漸次物質的に進歩してくると、一般が華美贅澤に流れ、惰弱に陷り、文化生活と稱して虚榮を競ひ、隨つて軟派に屬するものが增加する。一面又た思想上の關係から男女の戀愛若くば性的に關係した淫猥にわたる不良青少年少女も增加してくる。以上の外、歐米の或る學者の如きは不良兒を生む原因の一として活動寫眞や小説等を指摘して居る。私は之れに同感である。かの低級な活寫や俗惡な小説によつて罪惡の本能を誘致することは珍しくない從つて兒童と娛樂の關係に付いても大いに考慮せなければならぬと思ふ。

然らば彼等不良兒を如何にして善導すべきかと云ふに、これは最後の問題であるけれども、之に對する愚見を述ぶる前に、現在我邦において夫等の不良兒が果して如何なる施設の下に教化されつゝあるかに就いて其の主なるものを參考として略述して見よう。

(一)**少年審判所**　歐米の例に倣ふて、我政府では少年審判法の制定と共に愈よ本年度から東京と大阪とに少

年審判所を開設し、不良行爲のあつたものを同所に收容して善導訓化し、尙ほ別に敎護係なる特殊の機關を置いて彼等の行動を常に監視し、その不良的のものに對しては將來健全なる心身の發達と幸福なる生活を爲さしむるために嚴重なる取締をすることになつて居る。

(二)**矯正院**　少年審判所の開設と同時に之も東京と大阪とに開院せられ、本年度には各百名を收容する事になつて居る。本院の目的は徹底的に不良兒を矯正するにあるのであるから、院生には寸暇も與へず、且つ學科以外に實業又は工業敎育を授ける筈である。將來は各院とも四百名を收容する計畫で、內容は中學校、幼年學校、實業學校を混合したやうなものであるけれども、普通の敎化機關と異なり、嚴重なる監督を與へるのであるから、充分の效果あることは申す迄もない。

(三)**感化院**　大正十年末の現在數によると、全國の感化院數は官公私立を併せて五十六あるが、之に收容された男女兒童は二千百二十八人で、何れも相當の效果を擧げて居る。

(四)**基督敎婦人矯風會**　同會は婦人救濟、不良女兒の保護を主たる事業として居るが、別に東京府の依囑を受けて浮浪女兒を收容し、之れに適切の敎育又は授産を施し、尙ほ兒童鑑別委員の意見に從ひ之を親權者若くば其他の保護者に引渡し、又は感化院其他の救護機關に送つて居る。

(五)**救世軍婦人育兒ホーム**　之は東京に本部を置き各地に支部を設置して居る。大連支部は滿洲における此種の唯一機關である。此のホームは明治三十九年四月滿洲婦人救濟會として開設せられ、同年九月該名稱を冠するに至つたもので、事業は薄倖なる婦人の救濟、孤兒其他憐れむべき小兒の救濟並に敎化で、收容者に對しては精神修養に意を注ぎ、猶ほ各自に其の志す業務に就かしめて居る。

善導方法　統計に表はれた全國の不良兒なるものは約七萬人あるが、之れに未だ其筋のブラックリス

トに載らないもの、公共團體に收容されないもので不良性を帶びたものを合すると、驚くべき數に上るは疑ひない。之等多數のものを善導するには、官民擧つて其の衝に當ることが必要であるけれども、私は夫れに對する二三の愚見をこゝに述べて本文を擱筆したい。

學校と警察の連絡　從來此の方面の取締に對して、學校の積極的であるに反し、警察署は消極的であつて全然別個の行動を採つて居た。例ねば不良行爲をなす兒童があると、警察署では說諭又は拘留し、同時に其の顚末を公表する、そして學校では其の公表によつて直ちに除名處分を斷行すると云ふ風で、學校と警察の間に連絡がない。輕微な訓戒によつて效果あるものを公表するの非なるは勿論、救ひ得るものを顧みないといふ事も又た教育感化の本分を沒却したものであるから、學校在籍者の如きは外部に對する發表を避け、犯行者があれば警察より學校と家庭とに通知し、尙ほ夫等の當事者立合のうへ本人に訓戒を與へる樣にしたいさうしたならば充分反省の效果があらうと思ふ。更に警察署に兒童係の如きものを置き、兒童の戶外における狀況を視察調査し、毎月一回位學校當局者と會合して相互視察の結果を交換し、また不良兒發生に對する豫防策を講じ、或は管內に於ける不良兒童及び不良性を帶びた者の住所、氏名、狀況等を所屬の學校に通知し、特に警むべき事項を通知する事等も其の一法であらう。

娛樂場の設置　兒童は春の草木と同じく日々發育するのであるから、其の糧として此の時代の大半を戶外の運動に費す。然るに市街地にあつては、活寫の如き、オペラの如き、飲食店の如き、種々な刺戟的挑發的の娛樂物があるので、彼等を誘惑するの機會が多い。そこで何うしても一定の遊戲場か娛樂場を彼等のために提供する必要がある。一方に有害な娛樂を禁じ、他方に適當な之れに代るべき施設をすれば、兒童の惡化は或點まで防げる。若し然うさせなかつたら、兒童は本來の慾望を滿足せしむる爲め、活寫へも行き、オペラ

へも行き、竟には有らぬ方面へも脱線する。社會から見て害惡なものであつても、兒童の眞純なそして幼稚な頭腦には斯る判斷力がないから、娯樂設備に注意を拂はぬのは危險である。米國教育局では少年少女のために冬季間屋内の娯樂所と夏季の運動場及び公園とに毎年八千餘磅を支出して居るが、之を以て見ても、兒童の爲めに適切な娯樂機關を設置するの肝要なことが分る。豫て計畫中の滿鐵の兒童遊園が本年から滿洲に實現されると云ふ話であるが、それは眞に結構な事である。

少年職業指導　之れは主として小學校卒業生に對する職業の指導である。政府でも其處に留意して昨今少年職業指導法の調査研究をなし、何等かの形式を以て是が救濟指導を期せんとしつゝあるやうである。試みに現今に於ける全國小學校卒業生なるものを調べて見ると、年々百三十萬を算して居るが、是だけ多數の卒業生の中で中學校に志願するものは僅かに十四五萬人であつて、殘餘の百十幾萬人は何れも何等かの仕事に從事するのである。然るに今日まで是等多數の職業的少年に對して何等の指導も誘掖も加へて居ない。卽ち爲すまゝに放任されて居る。米國では斯る方面に尠からず努力し、現に兒童職業指導官なるものが居て不斷に兒童に對する總ての檢査を勵行し、飽まで健實なる職業的少年の養成を期して居る。思想の頹廢した現代社會に多數の小學卒業生が實務に從事するは確に危險で、それは不良青少年少女の輩出に多大の關係を有するから、之が救濟方法として少年職業指導の如きは最も急須の事業である。

興業物の撰擇　興業物と云つても、芝居もあれば喜歌劇や活動寫眞もあるが、併し何と云つても現代青少年少女の娯樂の主要なものは活動寫眞である。そこで映畫の撰擇といふ事が肝要な問題になる。私は兒童が活動寫眞を觀ることを以て直ちに有害であるとは言はない、殊に今や活動俳優の向上が企てられ、製造者の頭腦も敎化的に大改造が加へられ、映畫の善用は漸次にヱヂユケーショナルに向ひ、一方警察の取締も嚴重

なのであるから、愼重な注意を拂ふ必要もないやうに思はるゝが、併しまだ〳〵劣惡な映畵が事實に於て多い。喜歌劇にしても肉感を挑發せしむるやうな低級なものが矢張り多い。之は獨り其筋の檢閱取締にのみ滿足せず、父兄なぞが自發的に檢閱、卽ち娛樂の撰擇を父兄が手傳つてやる事にしたら、劣惡な映畵を改めて優良な映畵となし、活動寫眞は眞に兒童の爲めに有利なる娛樂機關となり、一方營利に盲目的である營業者もまた反省自覺して善良な映畵を提供するに至ることゝ思ふ。

其他少年警察隊やボーイスカウトの組織なぞも必要な事であるが、要するに不良兒童の防遏と善導に對しては、社會的に完備した救濟機關を設置することにせねばならぬ。更に一面に於て各自の家庭生活を改善することも必要である。私は滿洲に之等機關の實現を望み、併せて兒童乃至靑少年少女の善導良化に關して各人の自覺の速かならんことを希ふて已まぬものである。

各方面より觀たる免囚保護の必要

財團法人爲仁會常務理事　菊地吉次

出獄人保護なるものは監獄に於て刑の執行を了り放免された囚人を保護すると云ふ意味のものである。併しながら免囚卽ち出獄者に對し適當の保護を加へ再犯に陷らざる樣にしても、起訴猶豫者及び刑の執行猶豫者を救濟しなければ、前門暴虎を防ぎ後門豺狼を入れると同樣の結果になる、由來保護團體の多くは免囚保護のみに限定されて居るが之は狹きに失する樣に思はれる。試みに起訴猶豫者と在監受刑者の數とを比較するに、每年起訴猶豫者は在監受刑者の二倍以上にして、兩者を合算すれば十五萬人を下らないのである。故

に出獄人に限らずして起訴猶豫者も刑の執行猶豫者も亦保護するの必要ありと信ずる。又在監者の家族も刑事被告人も保護するの必要がある。此點に付ては後に評論するから玆に其の説明を省略する。然らば如何なる常習犯罪者にして改善不能のものにても等しく保護せねばならぬかと云ふに、斯くの如きものは固より保護の必要がない、否寧ろ保護不能のものである。

出獄人保護の必要を説くに方り、先づ刑罰は如何なる意義と使命とを有して居るかを明かにする必要があるから、此點について一通り卑見を述べることにする。

一、**刑罰の法律的意義**　刑罰は國家が犯罪人に對して科するところの制裁にして犯人が法律上享有するところの利益を剝奪するのである。犯罪人を監獄に拘禁するのは犯人と社會とを離隔して犯罪行爲を不能ならしむる爲である。即ち生命刑は生命を奪ふが故に再犯不能となり、自由刑は拘禁せらるゝに依り再犯不能の狀態となる、而して物理的機械的に犯罪を再びすることが出來なくなる。刑罰は此の如く犯罪人を離隔して犯罪不能の狀態に置くと同時に、其の罪性を改善して社會に順應せしむる目的を持つてゐる。是れ根本的再犯豫防法の一である。要するに刑罰は犯罪人の利益を剝奪し制限するものであつて、裁判官が法律に定むる手續に依りて罪を斷じ、責任を明かにし、以て刑法の威力を宣言するのである。

二、**刑罰の倫理的意義**　社會成員の一人たる犯罪人の爲したる罪惡に對し科する所の制裁が即ち刑罰であるが、犯罪は社會に對する叛逆的行動であつて、刑罰は即ち社會の反動である。由來刑罰に關しては報復説保護説、威化説、威嚇説、正義恢復説、改善説又は懲罰説等種々あるも、最後の三説を合併したるものが倫理上正當のものであると信ぜらるゝのである。

三、**刑罰の社會的意義**　吾人は相互に其の本分を守り他人の權利を尊重すべきは勿論にして之に違犯すれ

ば相當の制裁を受けねばならぬ。正義は法規又は約束を尊重すること、公平にして偏頗なきこと、平準にして均衡を得て居ること、平等にして差別なきことを意味する。結局各人相互の本分を守り他人を害せざることに歸着する。故に之に反したる行動を執るものには相互の制裁を加へねばならぬ。其の制裁は卽ち刑罰にして、刑罰は犯罪に對する反對判斷であり、犯罪人に對する社會的非難である。

四、刑罰の心理的意義　個人が自己の不正行爲を悟り、人間としての善美なる心情に復歸すれば、正當なる意識が現出する。之を下の如く分類することが出來る。

(イ)應用作用　自ら自己の行爲を批判し、その不正なることを悟り、良心の苛責を受け、而して因果應報の已み難きを覺知する、之を應用作用といふ。

(ロ)懲戒作用　懲戒は懲らし戒めることにして、之が效果を確實ならしむる爲め、往昔は苛虐慘酷の手段を執り、肉體に苦痛を加ふるを以て刑の確實性と思惟したものだが、思想と時代の進步に伴ひ、近世に至り死刑の外の身體刑は捨てらして自由刑を行ふことゝなつた。

(ハ)改善作用　刑罰に依り改過遷善の實を擧げさせるのである、之れを言ひ換ふれば、犯人の惡性を矯正しそして善良の品格を養成せしむるにある。

(ニ)離隔作用　犯人を社會より離して監獄に拘禁し、以て不自由なる生活をなさしむることで、這は社會一般のものと相伍せしむるに於て平和を害すると認むるからである。

(ホ)威嚇作用　社會民衆をして犯罪心を起すなかれ法令に違反するなかれと警告することである、卽ち精神的抑壓である。之れと同時に、犯人その者に對してもその罪心を抑制し、將來犯罪行爲を敢てするの念慮を絶たしめんとするのである。

第一、刑罰の目的より觀たる必要　刑罰の意義は既述の如である、而して科刑は犯罪人を殺すにあらずして活さんが爲めであるから、彼等に新なる生命を附與し、新なる生活を爲さしめねばならぬ。即ち彼等に新生面を開かしめて社會に復活せしめねばならぬ。更に語を改めて云へば過を改め善に遷らしめ以て再生の新人たらしめねばならぬ。それには先づ犯罪人を普通社會より離隔して監獄といふ別社會、言ひ換ふれば、競爭激甚なる社會より競爭少なき社會に移し、滿期出獄の際は之と反對に競爭の少なき監獄より再び競爭の甚しい社會に送るのであるが、社會に送らしめたる後は、社會より社會生活に順應すべく要求されるのである元來彼等は社會生活に適合せざるため社會より離れて監獄へ入つたもので、監獄において社會に順應すべく訓練された者であるけれども、社會の成員たる資格を滿足に具備することは出來ない。即ち勤勉でなく、忍耐が足りず、短氣で、正直でなく、恐喝的言語があつて、社會生活に適合しない生活の敗殘者である。故に刑の最終目的を達するには此等出獄人を保護するの必要がある。

第二、社會共存より觀たる必要　人類が社會的共同生存を爲し相依り相扶けて行く狀態を連帶債務者間に於ける連帶債務關係と同一に見ることも出來、又社會に於ける一の協力的生活と見ることも出來る。學者が之を社會的協働又は社會連帶と說明するのは洵に至當である。即ち米は農家の作るもの、農具は鍜冶屋の造るもの、鍜冶屋の衣類は吳服屋で賣り、吳服店の建具は大工の仕事で、大工の食物は米であるといふやうに社會の各成員が協働連帶して社會生活を爲すのである。

難者曰く、社會は生存競爭に依り進歩發展するのである、生存競爭に於ける優者を益々强からしむるのが社會の目的であるから、弱者を保護する必要はない、社會生活は優勝劣敗、適者生存の理法に支配されるから、出來得るだけ强いものを發達させ、優者たらしめ、勝者たらしめなければならぬ、而して出獄人は社會

生活に適應しない弱者卽ち劣敗者であるから、之を保護する必要はない、生存競爭、適者生存は人類進化の上に於て見遁すべからざる事實であると。併しながら優勝劣敗に依り弱き者は敗れ强き者は勝つと云ふことであつたならば、人の事より吾が事と人を押倒しても利益を得んとし、永遠の利益よりも目前の利益に走り我利々々主義、利己主義になるは免れ難い勢である。吾人は自己一人で利益を得ることは出來ない、相倚り相扶けられて初めて利益を得る、卽ち船成金は戰爭の結果船腹不足のため利益を得、鐵成金は鐵の需用多きため利益を得たのである。換言すれば、連帶若くは協働の作用に依り得たる利益に外ならぬ。彼の米の買占め石炭の買占めの如きは實に人類社會の共同生活を害する最も甚だしい利己的行動であつて、斯かることを放任しておけば、强いものは暴利を占め、弱いものは非常に苦めらるゝのである。故に最も發達したる社會に於ては各部の平均協働に依り社會全體の發達を期せねばならぬ。

犯罪は社會の病患である、不健全なる部分である。此の病患の生ずるに付ても協働して居る所があるから之れも連帶せねばならぬ。犯罪は社會を害するものであるから之れに對して反動を起して强滅せねばならぬ此の反對行爲は社會の全員が連帶して當らねばならぬ。犯罪人は不幸なものである、可憐なものである、彼等は社會と調和することを知らざるものであるから、之を社會と云ふ圈内に入れて社會生活に適合させなければならぬ。而して監獄を放免されて社會に復歸したるものをして社會生活に順應させることも亦社會の連帶責任である。佛蘭西の社會學泰斗たるタルド氏は社會が天才を有することを名譽とするならば、犯罪人を出すことを恥辱とせねばならぬと云つたが、實に至言である。

第三、**國家經濟より見たる必要**　犯罪人や犯罪事件を處理するため莫大の國費を投じて居ることは、何人も知つて居るところで、試みに明治四十五年の政府豫算に依り考ふるに、裁判所の經費六百萬圓餘、監獄經

費六百萬圓餘、警察費參百萬圓餘、計金五百萬圓餘にして、之れに建物に關する費用を合算すれば貳千萬圓を下らない。現今の物價では其三倍を要するのである。此の莫大なる費用は國民の負擔である。國民は與國のため必要なる費用であるならば如何なる困難を忍んでも支拂ふであらうが、犯罪人のために要するものは喜んで出すものはなからう。けれども犯罪人のある以上は之を負擔せねばならぬ。而して其の負擔を輕くするには犯罪人を減少せしむるの外に良策はない。出獄人の保護は即ち其の減少の一手段にして他に適當の策はない。故に國民の負擔輕減の一策としても保護の必要がある。

第四、**社會防衛より觀たる必要**　生存競爭の激烈なるに從ひ、優者榮へ劣者凋むは自然の數で、而して劣者は落伍者となり、道義を顧るに遑なく、或は他の財物を盜み、或は他を欺罔して財物を取り、甚しきに至りては他の身體を傷ひ他の財産を强奪する惡漢無賴の徒となる。毎日配達さるゝ新聞紙を見るに、社會記事の大部分は竊盜、詐欺、强盜、傷害殺人等の犯罪件數を以て充たされて居る。更に驚くべきは不良少年の増加である。彼等は犯罪人の卵にして、他日犯罪人に變ずるのであるから、不良少年の増加は犯罪人の増加を意味し、犯罪人の増加は危險の増加を意味する。吾々の如き無財産のものは兎に角、財産を所持する人々は常に此の危險に包圍せらるゝと云ふても敢て過言ではない。幸ひ警察制度の存するからは、此の危險を或る程度まで防ぎ得るも、絶對に防ぐことは出來ない。此種の危險は都會にのみ限らず村落にもあり山奧にもある。而して此の危險減少策は犯罪人の救濟と犯罪防止の外に手段はない。

第五、**刑事政策より觀たる必要**　吾人にして伸ぶべき權利を伸張し盡すべきの義務を踐行して悖らなければ、處世の道に於て缺ぐる處ないばかりではなく、刑法の如き殆んど空文徒法に終るのである。刑法をして空文に終らしむることは即ち刑法の目的を貫徹せしむる所以である。顧みて我が刑事界の現象は如何である

かと云ふに、既往數年前より國禁を犯すもの益々增加し、其の手段愈々巧妙となり、暴力的犯罪より智能的犯罪に進み、一たび獄衣の人となるも尙且つ前非を後悔せず、再犯三犯に及ぶもの少からず、獄舍爲めに狹隘を告ぐるの狀況となつた。元來刑は止むを得ずして行ふもので、總べての犯罪を檢擧し一々之れに刑を科することに因りて犯罪を撲滅することは出來ぬから、其原因を尋ねて根幹を除去し、根本的に之れを救治するのが最も策の得たるものである。即ち防貧、救療、其他種々の社會的施設によりて犯罪原因の除去に努めねばならぬ。社會政策と犯罪の豫防鎭壓を目的とする刑事政策とは並行せしむる必要がある。若し犯罪の個人的特性の矯正及び社會的素因の芟除を目的とする政策の實績が擧がつたならば刑事現象は恐らく一變するものと思はれる。刑政の要求たる起訴猶豫、行刑猶豫等は科刑に依らざる懲戒方法であるから斯る寬典を行ふことも亦大いに必要である。即ち一面に於ては社會政策的施設に依りて社會の改善を計り、一面に於ては科刑に依りて懲戒感化を爲し、又他の一面に於ては科刑に依らざる懲戒を以て犯罪を救治せねばならぬ。唯之が有終の美果を收むると否とは處分後に於ける訓育、感化、保護、監督の如何に存ずるのである。凡そ敎育感化のことたる至難の事業でありて、就中犯罪人の敎化は一層困難であるが、併し乍ら社會の實際生活に稽へ、犯人の性格境遇を察し、之れに對して保護監督を加へ、徐々に敎化したならば、其の全部を救治することは固より望むべからざるも、其の一部を改善することは必ずしも不能でないのである。是れ刑事政策上の要求からも免囚保護を必要とする理由である。

第六、**正義人道より觀たる必要**　犯罪人は法度を破つたものである、道德の賊である、故に社會から冷遇を受け擯斥さるゝのは當然であるやうに思ふて居る人もあらう。併し刑罰を受けた以上は罪を償つたのであるから、囚人殊に免囚を排斥して之を疎外するは人道に反する。殊に彼等は弱者であるから之を助け之を救

ふのが同胞の責任である。是れ人道正義の上より保護の必要なる所以である。

第七、地方自治より觀たる必要　人類が健康を維持せんとすれば健康を害する所の「バチルス」を除かねばならぬ。市町村もまた住民の幸福を增進せんとすれば之を妨害する處の不良民や犯罪人の根絶を圖らねばならぬ。縱し根絶が出來ないとしても減少せしめねばならぬ。然らざれば彼等のため市町村の安寧が保たれないばかりか、一國一家の生產力にも影響するのであるから、一面殖產興業及び敎育等の積極的施設を爲し他面に於て社會的防疫事務卽ち犯罪救濟等の消極方法を講じ、兩者相待つて地方の健全なる發達を圖らねばならぬ。尙ほ犯罪人や刑事被告人が增加すれば警察費が多くなり、警察費の多くなれば地方税が增加するから、此點より見ても不良民や犯罪人の根絶若くは減少を圖ることの必要あることは極めて明瞭である。市町村に於ける自治卽ち自ら治めると云ふことは之を犯罪の救治にまで及ぼして然るべきを覺ゆる。是れ地方行政の上より見るもまた免囚保護の必要ありとする所以である。

第八、世界の大勢より觀たる必要　刑事學の硏究を代表する團體は第一萬國刑事協會、第二刑事人類學萬國會議、第三國際監獄會議の三つである。萬國刑事協會は一八九十四年七月二十七日「アントワープ」に於て會議の議題として免囚及び少年保護の成績統計を擧げ、一九〇二年九月十八日「セントピータスポルク」に於ける會議にも免囚保護の事項があつた。此の協會は世界の四大刑事學者リスト、プリンス、ハメル、ガロが中心となりて居る有名なる學會である。刑事人類學會議はロンブロゾーとフエリーの首唱に依り設立されたもので、大正三年九月に開かれた會議の事項中にも免囚監督の事項がある。國際監獄會議はミットマイエル外三名の首唱に依りて成りたるもので、同會議にも免囚の保譯、免囚の悛心再發、免囚保譯事業に對する國家の補助、少年犯罪者の取扱、保釋會社員の監督訪問、免囚口入會社の補助、授產勞働所設立の事項等

が提出された。歐洲各國に於ても出獄人や不良少年の保護に關し大いに研究して居ることは右に依りて明かである。我邦よりも社會制度の備はれる歐米に於て既に此くの如くなる以上、況んや其の社會制度及び施設の不備なる我邦においておやで、一層之が保護の道を講せねばならぬ。

第九、我國の沿革より觀たる必要　更に轉じて我國の歷史を尋ぬるに、德川時代に於ては石川島に人足寄場を設け、此處に無職無賴の徒を留置し、是等のものを强制して手業を營ましめ、手業なきものは之を人足として使役し、衣食を官給し、三年を經て其の所持金を給與し、以て正業に歸復せしめた。卽ち失業者に職業を授けんとする社會政策に外ならぬ。享保に紀綱弛み、奢侈淫逸の風滔々として瀰蔓し、大名の窮迫甚しく、天變地異頻々として起り、金融凝滯して兇荒見るに忍びざるの慘狀を呈するや、此等の天災と田沼意次父子の惡政が原因となつて、所在に失業者や良人が殖ゑた。是れ前記の經濟的社會政策を案出した所以である。次いで天明饑饉の際、松平定信公が老中となり、家齊將軍を輔佐して改革の衝に當つた。定信公（白川樂翁）は幕府中興の明主にして、剛毅果斷、識見高邁、以て天下に臨み、忠實を登用し、姦邪を斥け、民聲に聞き、時弊を改革したのである。世に寬正の治と云ふは卽ち樂翁公の善政を稱したものに外ならぬ。其の治績の一たる人足寄場は火付盜賊政役長谷川平藏の獻策に依り設立されたもので、社會組織の簡單なる時代に於て、猶且つ失業者及び浮浪人の爲めに斯る保護所を設けたのである。然らば現時の社會に於ては一層其の必要あることは明白である。是れ帝國の歷史上より犯罪防止の緊要なる所以だ。

出獄人の救濟は之を精神的救濟と經濟的救濟とに別けて考察せねばならぬ。卽ち一は人心の改善にして一は生活の保護にある。人心の改善は主として敎育家又は宗敎家の指導誘掖に依らなければならず、生活の保護は官公署、在鄕軍人會、憲兵警察官署、有志家の援助努力に俟たねばならぬ。近來出獄人保護の思想漸次

普及され、保護團體の設立を見るに至つたけれども、其の保護の力を津々浦々に及ぼすことは不可能であるから、假令保護會に於て保護するものとしても、地方行政に携はる人の助力を得なければ其の完全を期することは出來ない。例へば法令の範圍内に於て免税處分をなすが如き、施療券を給與するが如き、土工の人夫に雇入るゝが如き、土地整理の土工をなすが如き、何れも地方行政に係はる人の爲すべき事である。此處に注意を要するは救濟方法を誤れば救濟せざるよりもヨリ以上の惡結果を見るといふ事である。彼等の生活の眞相を究めずして泣言を信じ、徒らに金品を惠與するが如きは、金品惠與のため徒手遊食の弊を助長し、結局保護の目的に反するのである。「ロンドン」に於ける實例に徴するに救助金交付の當日は酒の賣高が非常に增加したと云ふことである。救助の要諦は獨立自營の人たらしむべく善導するのであるから、已を止さる場合の外、金品を與へない方が良い。生業を與へ腕と汗とに依り衣食させねばならぬ。過去の社會は優勝劣敗自由競爭卽ち鬪爭であつたけれども將來は社會的協同社會連帶卽ち和合の時代となるものと信ずる。各位の助力を仰ぎて大いに保護思想を宣傳したいのである。

滿鐵會社
社會施設

滿鐵十二年度の社會施設を聞くに大體十一年度と變りなく別に目新しき事業も行はれざる模樣であるが唯年末運輸部にて希望し居りたる支那人傭員宿舍を建設して支那人待遇に一改善を加ふべく其建設戸數は大連を第一とし全線に亘り約八百戸に達するといふ近來滿鐵も社會的施設に對しては深き注意と努力を拂つて居るが内地に於ける社會事業の急足なる進步には到底比較すべからざる樣だ此點に關しては牧野社會課長も大に遺憾として居るが要は豫算卽ち經費と此れを活用し得べき人の問題で此れには滿鐵も未だ十分と云はれる程度まで達して居ない川村現社長は内務省警保局長時代には社會事業研究會の委員として委員會開催毎に出席研究する處あり内務次官時代には同會の副委員長として大に智識を肥やし相當抱負を有して居ると考へられる就任後不言裡に下級社員の年末賞與率を增し且つ勤務時間の短縮を實行し實際上の施設も行つて居るから其社會施設に對する智識は勿論抱負及び實行力も決して前早川社長に劣るものではあるまいと云はれる隨つて今後の施設にも可なり大きな期待を與へられて居る是非とも滿洲の社會施設に直間接の努力を望む。

調査記事

碧山莊の社會的施設

相生氏の苦力收容事業の一班

山東出稼苦力の南北滿洲に去來するもの年々幾十萬人を算するは何人も知悉する所である。蓋し南北滿洲に於ける總ての事業、苟くも力作勞働を要する有りと有らゆる仕事で、此等苦力の天稟的勞力に待たぬものはあるまい。彼等の勞力は滿洲の產業、滿洲の有らゆる工業、其他總ての榮養素であり原動力であつて、而かも其の賃銀は世界稀に見るところの低廉だ。南北滿洲は地積洪大で無限の寶庫を有すと稱せられ、天與の幸多き地壤であるが、此の幸多き地壤を開拓し行き其の無限の寶庫を掘鑿し行くには勿論資本と智術を要するけれども、亦一面において勞力を要すること勿論で、その山東苦力の低廉且つ强勢なる勞力に待つところが多い。

滿洲全體に就いては姑らく之を措き、今大連市及び其の附近に於て一定の住所を有し又は年々去來する苦力勞働者の員數は、月に依て增減はあるも、平均二萬五千人を下らざるべく、三萬人乃至四萬人以上を算する月もある。此等の苦力勞働者は大連埠頭に於ける各種荷役作業に從ふを主とし、滿鐵事業に於ける職工技術者として、油房工業生產の勞役者として、土木、建築、道路、其他の勞役作業の從事者として、孜々營々倦むを知らずに働いてゐる。此の產業上及び工業上に缺くべからざる苦力に對し、大連乃至滿洲において如何なる社會的待遇を與へて居るかと云ふことは、支那にも勞働問題の漸次擡頭し來れる今日、社會問題の一として吾等の大いに注意を要する事柄であるが、其の最も整ひたる又最も古き歷史と根抵を有する施設として、吾等はこゝに福

昌公司主宰者相生由太郎氏の經營に屬する苦力收容所碧山莊の事績を擧げたいのである。

苦力收容所碧山莊の主任者である小倖善藏君は碧山莊の創設由來並に其の經營に併せて苦力生活狀態等を概述した一冊を示されたが、夫れを摘錄すると次の通りで、苦力收容所の創設經過及び收容の狀況等は略々察知することが出來る。

碧山莊は埠頭に於ける諸作業に從事する仲仕苦力の收容所で、埠頭を距る東南總一哩の山麓に建設してあるが、這は明治四十四年關東都督府の許可を得且つ南滿洲鐵道株式會社承認の下に相生氏の創立したもので、同年大半の建設を了し、引續き增築に增築を重ねて完成し、以て今日に至つたのである。碧山莊は第一、第二收容所に分ち、兩者を合せて現在の敷地總坪數二萬九千坪、宿舍延坪數七千五百九十坪に上り、優に一萬二千人以上の苦力を收容するに足るところの規模雄大のものである。

收容所　第一收容所は煉瓦建平家建が四十五棟此の坪數三千坪、同二階建が三十六棟、此の坪數四千百坪、同平家建(家族持宿舍)が五棟、此の坪數二百十坪、第二收容所は煉瓦造平家建が三棟、此の坪數二百八十坪で、全體の結構實に堂々たるものである。此等宿舍建築に先ち、アンペラ式假建物內に約一千名近くの苦力を收容したのが碧山莊の前身ともいふべきものであつたが、夫れは建築の年に於て火災のため燒失した。次いで建設されたのが現在の第二收容所で、第一收容所は引續き明治四十四年に大建築を起したのである。蓋し當時に在りて此の山間僻遠の地に斯かる堂々たる煉瓦造の大建築を見たのは何人も驚異とした處であらう。

設備　防寒設備は總てオンドル式に依り、各戶に炊事場があるので、其の火氣を利用して全床を溫むる事が出來る。排水設備は地形の傾斜を利用し、煉瓦又は粗石にて縱橫に溝渠を築造し、其の先端を暗渠に通せしめて溪谷に放流して居る。

衞生　掃除作業として春秋二回に大清潔法を施行し、其他適宜清潔法を行つて居る。また天然痘、腸窒扶斯、虎列拉等流行の虞ある場合には無料豫防注射を施行して居る。更に一室內に流行病患者を出せる場合は、直ちに莊內の病室に移し、且つ同室者を隔離する等、防疫に努力して居る。尙ほ莊內には醫務室、消毒室及び百名內外を收容し得る病室の設備

が出來てゐる。又莊内に個人經營の浴湯一棟ありて低廉なる入浴料で入浴せしめて居る。

收容能力　埠頭の繁忙期なる十二月より翌年六月までは一萬二千人内外、閑散期なる七月より十一月までは約八千人の苦力を常に收容して居る。隨つて一箇の堂々たる人寰を形造つてゐる。最近卽ち二月十九日現在の收容苦力數は實に一萬三千百四十一名を算した。此等一萬三千餘名の苦力は前記八十八棟の建物内に起臥し、他の苦力勞働者の夢みる事も出來ない平和な幸福な生活を營みて居る。

年齡と地方別　前記の收容苦力を年齡別と地方別とに區分して其割合を示すと二十歳より三十歳まで五五パーセント、三十一歳より四十歳まで三十パーセント、四十一歳以上十五パーセント、山東省生れ九十パーセント、直隷省生れ八パーセント、關東州生れ二パーセントである。

勞働時間　正味勞働時間は時期に依て異なるも平均九時間乃至十時間で、外に食時休憩又は夏期午眠時間として一時間又は二時間を要する。

作業能力　仲仕的苦力の作業能力は寔に驚くべく一人にて百五十斤乃至二百斤内外の大豆豆粕等を擔ひ得るの力量があり、終日勤勉勞苦して毫も倦まざるは更らに驚くべく、而して一人一日平均一萬斤約六噸の作業能力を有すといふ事である。

監督、慰安、救濟　常に一箇師團に均しい員數の苦力を收容して居るけれども特に監督機關の設けはない。唯僅に總取締一名と苦力移動取締係二名を常置せるのみで、總ては苦力頭約三百名の支配下に任せて統率せしめて居る。收容中の苦力は彼等仲仕に免れ難い粗暴喧騷の性癖もなく、極めて温順で互に友誼に篤き風あり、喧嘩口論等殺伐の擧動もなく、且未だ曾て同盟罷業を企てた事がない。

莊内には劇場がある、祝祭日には演劇、活動寫眞、蓄音機等の餘興が行はれる。外に莊内に寺院天德寺が建立され支那僧が奉侍して居る。

數名の囑託醫があり、且つ常置の日支醫務擔當者が居りて、公私傷病者の區別なしに無料にて施療施藥を爲して居り。健康狀態は一般に良好であるので日常病室の收容患者は之れを平均して二十名内外に過ぎない。公傷又は死亡等の場合は埋葬費の外に猶ほ遺族扶助料をも支給して居る。

萬靈塔　大正八年十月に苦力收容所碧山莊創業

十週年を機として天德寺隣地に建設したのが萬靈塔である。基礎臺の高六尺八寸、塔の高二丈一尺の大塔である。碑の表裏は釋宗演師の撰並びに書で兩側面は金子雪齋翁の書である。此の萬靈塔は公私傷病のため地下に眠れる福昌公司の日支店員及び苦力六百五名の靈を祀れるものである。

相生氏の獨力經營せる苦力收容所碧山莊の沿革、事蹟、内容及び施設の概要は以上の通りで、其の規模の大なる、用意の周到なる、總ての整頓せる、以て之を首肯するに難からざるものがある。一萬二千内外の苦力勞働者は、斯くて此の温たかな慈愛に涵れる社會的施設のうちに安らかに抱擁され、其處に極めて平和な極めて幸福な生活を送つて居るのである。殆ど穴居に均しい土窟式な又はアンペラ式な住居に一生涯を終るを常として居る苦力勞働者が、斯く設備の整へる碧山莊の中に安定生活を營み得る事は、社會的待遇の宜しきを得たものとして推奬に値ひする。また大連港の今日ある所以は實に碧山莊苦力勞働者の勞力に待つの大なる事をも記憶せねばならぬ。此意味に於て、相生氏の經營せる碧山莊の社會的施設は、勞働問題の上にも極めて有意義のものと認めざるを得ないのである。

勞働運動と滿鐵の見習職工養成

財界好況時代における勞働運動と滿洲

大正八年頃の財界好景氣時代に於て、最も世人の眼を聳だてしめたのは有らゆる事業會社の濫興であつたが、それと同時に更に世人の眼を瞬らせたものは勞働運動の擡頭であつた。此等の事態は内地に於て頻々續發し、世論喧囂の焦點となつたのみならず滿洲にも波及し、事業會社の濫興は勞働運動誘發の主因となつた。勞働者の需要が激増し、腕一本脛一體でハンマーを手にし指金でも持ち得た程の勞働者は引張凧といふ風で歡迎されたのだから、當時勞働者間の意氣込は實に素破らしかつた。

滿洲に於ける勞働者は邦人側と支那人側とに二大別し得るが、當時勞働運動の主體となつたのは無論邦人側で、支那人側は殆ど關與しなかつた。然し乍ら勞銀の引上昂騰等の問題解決に方りて支那人側を除外し得なかつたのは勿論である。此等の事は財界好景氣時代の事で、勞働問題の解決は何等故障なしに勞働者の爲め極めて有利な進捗決定を見たものであつたが、大正九年の春期に於て突如財界の反動が襲來してからは、形勢頓に一變し、事業界の凋落となり、失業者の續生となり、それが勞働運動にも影響し、內地においては勿論、この滿洲においても勞働運動は火の消ゑたやうに終熄した。

滿洲の勞働者は支那人その大多數を占め、邦人勞働者は其の數少きため、勞働運動と言つたところでそれは歐米諸國又は我が內地に見るが如きものとは自ら其の趣を異にして居るが、併し之を輕視し閑却することは出來ない。而して滿洲に於て最も多數の日本人勞働者と支那人勞働者とを傭使して居るのは滿鐵會社であるから、財界好景氣時代に滿鐵會社が邦人側勞働者の出入異動の頻繁なりしに少なからぬ苦痛を感じ、また其の勞働問題に惱まされたのは事實で、一部の同盟罷業をも餘儀なくされた。然るに財界反動後は形勢一變して勞働者の解職沙汰があり大正九年中沙河口工場に行はれた日支人職工の大淘汰事件の如きは、慥かに滿鐵會社の職工勞働史の一部に特記せらるべき事柄である。

上來述べた點は滿洲勞働運動の發生事情や日支人勞働者の關係や勞働問題研究の必要事實等に過ぎないが、玆に世人に紹介すべき一事は滿鐵會社の多年實行し居れる見習職工養成の事績に關する事である是は滿鐵會社の大工場である沙河口工場に於て多年實行され居る事で、此の見習職工養成なるものは明治四十四年頃から行はれ、其の主旨は高等小學校卒業程度の日支人少年を募集して見習職工となし、其の修業期間を四箇年となし、二箇年間を必要學科の復修に充て、二箇年間を實修期間となし、各種職業に必要なる學科と技術とを修得せしめ、最も優良なる職工技術者を養成せんとするに在りて、究極の目的は該養成職工を以て中堅的職工となし以て全職工を統率せんとするにあるのである。

大正八年乃至九年頃には每年度日支人とも五十名位宛の見習職工を募集養成したが、以前は十數名乃

至二十名位に止め、最近では日支人三十餘名位の養成を爲して居る。已に今日迄に修業者を出した事が九回(毎年度一回)で、本年三月には第十回目の修業者を出す事になつて居る。第九回迄の修業者は日本人側百三十五名、支那人側八十三名で、勿論中途退所者もあり、又修業後に於ける轉職者もないではないが、以上修業の日支人職工は大部分工場在勤職工として優良な成績を擧げて居るさうである。滿鐵では何處迄も此の養成制度を進行擴張して善良且つ熟練なる職工技術者を養成し、併せて職工の品性陶冶を圖り、其の人格向上に努めるとの事である。是は慥に優良なる職工を養成し、併せて勞働問題を善良なる方面に導くための良方法と言ふべく、尙ほ今後に於ける日支人勞働者の連結を計り併せてその調和の階梯を形づくるものであらうと思ふ。

言ふ迄もなく、勞働運動は當今の社會に避くべからざる自然の勢であつて、支那にも既に其の擡頭發生を見るに至つた程であるから、多數の支那人勞働者を使用する滿洲においては將來のため今より豫め之に備ふる所がなくてはならぬ。滿鐵の職工養成はその準備の一としても力あるものだらう。

支那勞働者の渡日

支那勞働者の渡日が近時著しく增加したが嘗て當局の取締が嚴重な際は殆ど入國するものは僅少であつたけれども最近又々當局の取締が寛大となるや支那勞働者は傘商となり或は小商人等に化け込んで恰も潮の如く渡日して居る昨年末上海から門司入港の郵船八幡丸のみでも支那人百十三名が渡日した其うち六十四名は門司上陸其他は神戸に向つたが殆ど着の身着の儘であつて商人とも思はれず誠に氣の毒な狀態である斯う云ふ風に便船每に五十名乃至百五十名が一團を造つて續々入國するので我勞働者が一大脅威を受けはせぬかと憂慮されてゐる彼等渡來支那人の多くは山東省や四川省の者が多く一般不景氣と擾亂の餘波を受けたものださうである而して彼等は日本に行けば譯もなく一攫千金を得ると云ふ丸で雲を摑むやうな考であるらしいが實際はさうでなく饑餓に迫られる在留支那人も少くないさうであるそれを知つた者は又も本國に歸來するさうであるが昨年中に渡日した支那人の數は一萬七八千人の多きに達した身の寄邊もない浮草のやうな彼等支那人の憐れさは誠に想像以上に達して居るが相當の取締は國內政策からも必要な事であらうと云はれてゐる。

富の分配と社會政策

法學博士　小川鄕太郎

一體社會問題といふものは此の社會に貧富の懸隔の甚だしい事實を貧者が自覺することに依つて起るものである。故に貧富の懸隔のない社會問題はないのである。然るに近來我國に於ても貧富の懸隔の事實が日を追ふて顯著となつて來り、富者の驕奢を極むるに反して貧者の生活に窮する狀は何人も見逃すことが出來ない事實で、貧者自らもこれを覺らざるを得なくなつて來た。この貧者の自覺に油を注いだものは歐米に於ける勞働運動の影響であることは何人も承認せざるを得ない所である。

社會問題解決の急務であることは今更呶々を要しないところで、それが方法も種々考究されてゐるがそのうち最も實行の見込みあり又最も效果ある方策としては現在の國家をして之れに當らしむることである。現在の國家をして社會問題の解決をなさしむるとするならば、先づ根本として國內の富の不公平なる分配を矯正することにせねばならない。何故ならば、前述せる如く、社會問題の源は貧富の懸隔といふことに依るものであるから、それを矯正することは取も直さず病源の根本的治療に相當するからである。斯く云へばとて私は決して徒らに富の分配の絕對的平等を主張するものではない、唯今日の社會に見るが如き富の分配の甚だしき不平等不公平であることに對してこれが矯正の必要を認めざるを得ないのである。斯くする事に依つて人文の發達が豫期せらるるものならば即ちこれを以て今日の社會的正

義と云はざるを得ないのである。

不平等なる富の分配を矯正するといふ根本思想が許されると其處にあらはれて來るものは社會政策でなければならない。而して社會政策の大體方針は二つの方面に向って行はれるものと信ずる、卽ちその一は貧者の生活を保障することであり、他の一は富者の富の集中を制限する事である。

前者の意味に於ける社會政策として國家の爲すべき施設は、國家は勞働の自由契約に立入って勞働者の最低賃銀を定め、或は利潤分配の方法を定むるの必要もあるであらうし、勞働者をして勞働保險に加入せしめたり、又貧しきものゝ子弟に對しては無月謝で敎育を授けたり、時と場合によっては食物を給するの必要も生じて來るであらう。貧しくして老ひたる者に對しては養老年金を與へるの道も講ぜられなければならず、貧困の生める不良少年はこれを感化院に收容してその善導に努めなければならず、職を失へる勞働者に對しては勞働の紹介を爲し或は自ら進んで職を授けねばならない。併しこれ等は國家の社會政策的施設として漸くその第一步を踏み出した位ゐのものに過ぎない。後者の例は卽ち富者の富の集中を制限しようとするもので、之がためには國家は一方において特定の財產並びに企業を官有官營として私有私營の範圍を狹め、他方においては富者に課する租稅を重くすると同時に貧者に對する租稅を輕減し若しくは免稅し、而して富者より徵收したるところの租稅を以て貧者及び弱者の爲めの政治卽ち社會政策の費用となすべきである。

今日までの租稅に對する學說は租稅を以て國家公共團體の經費を支辨するが爲めに收入を得ることを目的とするものであると稱せられてゐる。然るに今玆に租稅に社會政策の目的を認むると租稅は財政上の目的と社會政策との目的と並び有することになる私の考へによると、社會政策的租稅は社會政策の目的を有するものであること勿論であるが、それと同時に、國家の收入を得る目的をも併せ有するものと見るのが至當と思はれるのである。社會政策的の租稅に就ては租稅の目的が社會政策的の意味に最も高調されること勿論であるが、一方より云へば國家の收入の目的を達しようとしてゐることは疑ひない事實である。凡ての租稅が國庫の收入を目的とすることは云ふまでもない、而して社會政策的租稅も亦明

かにそれを目的とするものなのである。唯だ社會政策的租稅が他の一般的租稅に比して異る點はその徵稅の方策に於て又その租稅の使用方法において他と大いに其の趣きを異にする所にある。

　租稅が國家本來の目的より見て手段たるべきものであることは疑ふの餘地がない。若し租稅を國家本來の目的に反することに用ゐるとすればそは租稅の本質に悖るものとして斥けることが出來よう。而して國家本來の目的より云へば、財政もその手段であり社會政策もまた等しくその手段であるが故に、その租稅が何にの方面に使用せられても正しいと云ふことが云ひ得られるのである。

　前述せる如き社會政策が完備すればする程、これが爲めに多額の經費を要することゝなり、從つて之を支辨すべき租稅が必要になつて來て、社會政策的租稅は愈々缺くことの出來ないものとなるのである人或は斯くの如きは租稅の目的を履違へたものであると云ふかも知れないが、富者から多くの稅を取つてこれを貧者の生活を保障するの施設に用ゐて貧富の懸隔を緩和することは、實に社會政策的租稅の本質を發揮する所以である。若し社會政策の手段として租稅を用ゐるの要なき時があるとすればそは社會政策其物の必要のなくなつた時である。

　私は徒らに富の絕對的平等を主張するものではないが、併し今日の社會に於ける富の分配の不平等なことは餘りに不自然であることを遺憾とせざるを得ない。精神的に肉體的に優れた人であり乍ら貧窮の極にある者があるかと思へば、精神的及び肉體的に劣つた人で巨萬の富を擁する者がある。これは現在の社會經濟組織の自然の結果であるところの所謂不勞利得の然らしむる處であるが、こは決して合理的の不平等といふことが出來ない。斯くの如く富の分配が既に甚だ不平等であるとすれば社會政策によつてこれを矯正して行くことは現在の國家にとつて最も重要なことであると信ずる。



社會政策的見地から

銀行預金主義廢止論

正隆銀行取締役
本會評議員　川澄末吉

大正九年春季の財界反動以來、總てが不景氣風に惱まされ、爾後三箇年餘に亙りて財界恢復の曙光すら未だに認むる事の出來ないのは、深酷なる不景氣の程度も偲ばれ、其の前途の如何に成行くかも不明で、我人共に痛嘆の限りである。然かも此等財界不況の結果として、吾人の最も寒心に堪へないのは財界又は幾多事業界に頻發せる不祥事件で、それ等が或場合に個人の不始末に屬し、或場合に團體の失態に歸し、而して其の影響の及ぶ範圍が個人乃至或る限られたる團體に過ぎざる場合あるも、又否らずして、其の打擊影響の波及する範圍が極めて廣汎に亙り、其處に社會的に由々しき大問題を發生する事あるも、敢て珍らしとせぬのである。殊に此等の不祥事件の頻發が吾人の社會生活問題に觸れ、各人生活の安定を破壞し、文化生活の意義を沒却するに終る事あるに至りては、決して看過し得られぬ重い問題であると言はねばならぬのである。

吾人は玆に吾人の立場から一事の立論したい事がある。夫れは外でもなく近頃頻々として內地に發生し又滿洲にも發生した銀行の破綻事件である。大阪に於て大投機師石井定七の爲めに誤まれて拭ふ可らざる失態と醜狀とを暴露した大小幾多銀行の失態事件の如き、京都に於ける積善銀行の失態と該失態を釀すに至つた同行重役高倉爲三の銀行業者としての不法行爲の如き、如何に重大且悲慘なる社會問題を惹起するに至つたか。次で內地東西各地に頻發せる大小幾多銀行の取付沙汰、仕拂停止事件等が銀行界の腐敗醜狀を暴露すると共に、對預金者關係に於て洵に寒心畏怖すべき社會問題を誘發するに至つたのは、已に世人の熟知する處で、吾人の立場としては

害に痛憤に堪へぬものがある。此等事件と前後して滿洲に於ても教育銀行や平和銀行の仕拂停止事件が發生し、其他にも不安を傳ふる者があつたのは、吾人の輕々に看過し得ぬ問題で、而して此の事が已に社會問題の一端に觸るゝ以上、吾人は一面之を社會政策的見地から觀察する必要を認めると同時に、社會政策上の見地から銀行改善を如何にせば可なるかを立論して見たいのである。

　銀行業者にして事業家を兼攝する場合、必ず其銀行を誤り、往々にして其の銀行を破綻破滅に導く事は、已に事實の證明するところで、又一般の定論として信ぜらるゝ所である。茲に於てか銀行の改善を說き、其の堅實を期せんとする場合、銀行業者としての適實なる資格を主たる必要條件と爲すは論なき所であるが、之を外にして銀行改善策として吾人の茲に述べたいのは銀行の預金主義を廢止すべき事である。言ひ換ふれば銀行は資本金を基礎として營業するを本位とすべしと云ふ事である。今日の銀行營業からいふと、預金主義を廢止して單に其の資本金のみに依りて行務を取れといふのは、實際上不可能の說であると評する向もあるべきが、吾人の信ずる所にては、銀行が現在の如くに預金を賴りとしないで單に銀行自身の資本金のみにして營業することは必ずしも不可能でないのである。之れを實行すれば銀行破綻の際に預金者との間に近來屢々現はるゝ社會問題の發生を防止し得るのみならず、預金主義に依る放慢なる銀行經營をも改善し得るの利益があると斷言するに憚らない。是れ卽ち吾人が近時頻出する所の銀行破綻事件に鑑み、之を社會政策見地からして、銀行預金主義を廢止し、其の資本金を主とすべきを提言唱說する所以である。

　今後も或機會に銀行の破綻事件が起る事ありとせば、現在の預金主義を廢止せざる限り、吾人は其の都度必ずや預金者關係に於て悲慘なる社會問題の發生すべきを信じて疑はない。監督官廳が平素銀行々務を監査し萬一の失態なからしむるを期するは勿論の事であるが、監査の周密勵行を期することは、事實不可能であつて、斯る當にならぬ監督官廳の監査を賴みとするよりも、前に述べた銀行預金主義を廢止するに若くはない。若し絕對廢止を不可能とせば之に制限を加ふるがよい。預金制限に三あり、資本額に對する預金額の步合を制限する乎、又は預金に

對する利率に制限を加へる乎、或はまた自然的に預金の流入を制限する乎である。更に之と同時に預金額に對する預金拂戻額の準備を限定し、以て預金の濫用を防止するのもまた銀行事業をして社會的に健全ならしむる所以である。

過激社會運動取締法案の批判

法學士　遠藤武

帝國議會に本年度の宿題として殘された一項に過激法案がある。これは政府の提案であるが、今簡單に其の理由と經過とを説明して見たい。

理由と云ふのは、近來外國との交際が接近して來ると同時に、我國にも外國にある同志と提携して過激主義の宣傳をなすものが漸次增加し、無政府主義共產主義、社會主義などに共鳴して朝憲を紊亂するが如き言動を敢てし、又社會の根本組織を暴動、脅迫、其他の不法行爲によつて變革せしめんと欲するものがあるから、斯る危險に對し之を取締る必要が生じて來たと云ふのである。

根本理由の不確實、法の適用範圍の不明確は先づ措いて、此の過激社會運動取締法案が曩に議會に現はるゝや、學者並びに總ての言論機關は總同盟の形を以て反對の氣勢を擧げ、與黨であるべき政友會內にも異論者輩出し、床次氏の狂奔的運動も何等の效果なく、貴族院も修正に修正を以てして政府の原案を骨拔きにし、會期終了の一日前、卽ち昨年三月二十四日の本會議で漸く通過せしめた。

政府及び與黨の意志としては、先づ貴族院を一氣に突破し、其力を以て衆議院を蹴散らさうと企てたのである。然るに匆卒の間に起草したらしい案件其物が已に法の體裁をなして居らぬのみか、第一立法の精神が徹底して居らないと云ふ點に於て異論簇出し、衆議院內の空氣險惡を極め、院外からの猛烈なる反對の聲は風の如く雨の如く貴衆兩院の甍を襲ふ

て「政府に信念のなき證據なり」との罵聲まで流れ込み、本案が最終日の衆議院本議會に上程された時の如きは、世論の反抗最高潮に達し、而して政府は院内結束の下に飽くまで之を防止せんとしたる爲め議會は開會以來未曾有の大混亂を惹起し、斯くて政府折角の企圖も見事水泡に歸し、遂に宿題議案として保留さるゝに至つたのである。

何が故に過激社會運動取締法案に對する世論の反對が酷しかつた乎、又何が故に貴衆兩院が之を不眞面目にいゝ加減に取扱つた乎、吾人は眞劍な筆を揮つて之れを捌いて行きたい。

由來思想は不可抗力であり、且又種々の文明力の源泉である。吾人は今假に過激法案が成立し法の一部として認定せられ而して帝國に施行された時の事を考へて見たい。先づ第一に他國よりの圖書その他の思想輸入に對して一種の制限を附せねば此の取締法の效力を薄弱ならしめるが、政府は之をどうする所存なる乎、また來遊する外人には一人一人嚴重なる束縛を加へねばならぬが、斯樣なことが果して行はれ得る乎、更に輸入されて來る總ての物は之れに高度の關稅に附するか若しくば法規を制定して取締らねばならぬが、斯ることが出來ると信ずる乎。若し左樣な極度の取締をすれば、結局は他國の感情を害するのみならず、引いては貿易上にも一大障害を與ふること明白だ。よし又それ等の關稅及び感情に他國が無關心であるとしても、次に表はれて來る所のものは「孤立の生活」と云ふ悲慘事であらねばなるまい。結局此の過激社會運動取締法なるものは明治初年に於ける鎖國攘夷の變體法といふ樣なものにならう。更に立入つて考ふるに、立法の精神は之を諒とすべき點あるとしても、實施後之を運用する行政當局者にその人を得ないときは、徒らに言論を抑壓し、教育を死滅せしめ、又國民進取の意氣を頓挫せしめ、其の結果、或は却つて自暴自棄的の勞働者乃至小作人の恐るべき直接行動を煽ることにならうも知れない。水の流れを無理に堰き止め樣とすれば却つて水勢を激するものである。

余は世界の歷史を通觀して、言論及び思想の抑壓が却つて其の言論及び思想を過激化せしめた幾多の事例を知つてゐる。過激社會運動の取締については別に自ら機宜の方法がある筈で、朝憲紊亂の社會根本組織の覆沒のと言つて、之を理由にして、窮窟な

杓子定規を作るは、甚だしい時代錯誤である。それは必らず藪蛇以上のものとならねばなるまいと思ふ余は常にかゝる姑息の手段に營々勞苦しつゝある我が帝國政府を悲しむものである。

最後に吾人は過激主義は果して外國の輸入體なるや、其の運動は他動的のものなるや、若しくば帝國自身の醱酵體なるやを一視したい。

余は東京在住の頃折々社會主義者の講演を聞いたが、それは當局官憲の宣示によりて中止せらるゝ事が多かつたので、滿足に聞き終つた事はない。斯うした事が却つて過激社會運動取締法を出さねばならぬやうな悲むべく憂ふべき事態を醱酵せぬかと憂ひて止まない。苟も人心の機微を知つたものは餘りに無暗なことは出來ない筈である。

新しい物に傾聽力を投ずるは人間個性の常道である。よし何等可能性を有せざる者に於ても、壓迫より生ずる何物かがあるとしたら、傾聽力の移轉は好奇の二字に向つて進んでゆく。見ていけないと云はるれば云はるゝだけ見たくなるのは人情の常である聞いていけないと告げれば告げるだけ聞きたくなるものである。見るな聞くなと强ゆれば、一種の間道を見付けて、妙にひねくれた殆んど手のつけられない思想の變態的傾向を生ずるものだ。

尙一歩進めてこれ等主義の上に於て常に研究の立場にある者と當局とが一も二もなく相敵視しゐることは面白くない。吾人は主義者自身の口から主義の說明を受けた事はない。彼等の頭にも三千年の歷史と云ふ强い因襲がこびり付いて居やうから、帝國民眞情の力が流れてゐない事はないだらうと思ふ、と同時に、主義以上に强い理性がある事を私は疑はない。政府當局は此點を考へて徒らに彼等を敵視する事なく、寧ろ進んで彼等と接近し、彼等の主張をも聞き、而して彼等を漸次に懷柔する方針を取るべきである。此方が遙に賢明な策だ。

滿洲社會事業研究會 新相談役と新評議員

相談役 高柳保太郎　評議員 森俊六郎
福田顯四郎　川澄末吉　井内勇
李子明……以上六氏

因みに評議員倉塚良夫、永瀧久吉、小西春雄三氏は離滿し郭學純氏は死亡した。

下級支那人に對する試み

在旅順　片平清

支那下級民を如何にして可なるやとの考より下記の如き試みをなした。元來支那人が困苦窮乏に堪へるの性質に富めることは世界隨一で、夏の炎天にも路傍に石を枕に安眠を貪り、冬はアンペラ屋根の内に起居して平氣で居り、食物の如きも粟パンに饅頭若くば生鹽に葱一本で一日を暮らし、朝は午前七時に起きて勞働に出掛け、午後六時頃まで働き續けて家に歸ると云ふ有樣で、孔子の云はれた肱を枕に樂み亦その中にありと云つたやうな處がある。それで生命も相當に長く保ち得る結構人である。歌に曰く長命は粗食、朝起き、道歩き、老いての後はひとりねにこそ、とは蓋し支那人の謂であらう。

斯る民族を如何に善用し如何にして良導すべきかと考慮の結果、旅順管内における魚菜及び屑物商のうち資金に困るものに金五圓を無擔保無證文で貸付し、毎日二箇月間一日十錢宛(卽ち六圓となる)受取るべき口約の下に貸出したるに、誰一人損害を掛けじと毎日雨天の外は持つて來るを例とした。晝時に來るものには鹽及び湯葱を與へると、喜んで又稼業に出掛けるが、困るのは魚賣りで、此方には損と掛倒れが多い。損は兎も角、掛倒れが多いのは、旅順の如き役人相手の商賣では掛賣でなければ成立たず然るに多くの小役人は俸給全部を購買會に差引かるる爲め、支那商のみならず、日本商の方にも支拂ふ餘裕がなくなるからだ。折角の購買會も斯うなると問題だ。最も成績の好きは屑屋で、一日一圓も二圓も儲かるのだから、一日の十錢は樂なもので、五六人の家族の扶持は裕に出來る。猶ほ自宅の剩りもの卽ち古着、古靴、古洋服、古本の如きも相當に賣り付けて呉れるから面白い。數年の後にならなければ成績の程は確かり言へないが、之を村落にまで普及せば、一段面白からうと考へて居る。賣藥行商なども良からうと思ふ。唯一つ阿片と賭博の嗜好が問題だが、之れは別に研究考慮を要する事だ。

研究資料

社會事業たる公營質屋（中）

前田稔精

（ハ）營業時間　我國に於ては幸か不幸か未だ白晝大手を振つて質屋の暖簾をくゞる者がない即ち質屋に通ふは一種の恥辱であり體裁に關するものとし或は使者に托するか自から出入する場合にも暮夜私かに質草を携帶するの習慣がある瓜哇の土人の如く白晝質舗の門前に蝟集堵列して少しも憚る所がないのは恐らく無智の致す處であらう又歐米諸國に於て左程顧慮しないのは厚顏の致す所であらうかも知れないが併し有體に謂へば自己の所有動産を擔保に資金を調達するのであるから恰も商人が有價證券を見返りとして銀行より金を借りると同一事で毫も憚るべき性質の事柄でもなく又恥辱とすべき筋合のものでもない若し文明が人類を無智より厚顏に導くものとするならば我國人も恐らく早晩質屋への出入を左程に屈辱視しない時期に達するであらう。

併し乍ら現在に於ては習慣上少くとも夜間の營業時間が質屋によりて最も多く利用せられる傾きがある從つて營業時間の如きも可及的延長する必要がある某地の質屋に於ては入質のみ午後十時迄とし質受に對して其の便利を與へてゐないが此くの如きは聊か片手落の感がある恐らくこれもまた自己本位の御都合主義であらう。

（ニ）利子　質屋と雖も警察の許可を受くる免許營業である以上固より不當の利子を要求する筈がない即ち質屋取締法に依れば

質屋取締法第九條

質屋は左に掲ぐる制限内の利子の外何等の名義を以てするも金錢を領收することを得す

貸金二十五錢以下は一箇月一錢

一圓以下は一箇月百分の四、五

圓以下は一箇月百分の三、十圓以下は一箇月百分の二半
本條に違反したる質契約は其違反せる部分に限り無效とす

とあるが故に貸出金十圓以下の利息は凡て此の規則の支配を受くるのである然らば十圓以上の貸出金はその利息に就いてそも〳〵如何なる法規の支配を受くるかと謂ふに利息制限法に依れば

利息制限法第二條
契約上の利息とは人民相互の契約を以て定め得べき所の利息にして元金百圓以下は一ヶ年に付百分二十以下百圓以上千圓以下百分の十五以下千圓以上百分の十二以下とす若し此の制限を超過する分は裁判上無效のものとし各其制限に迄引直さしむ

とあるが故に質屋の貸出金利息は大體に於て十圓以下は質屋取締法の定むる率、十圓以上は當然利息制限法の規定に從ふことになつて居る此等の規定利息は固より一般市場金利殊に銀行金利に比し太しく高利である又利息制限法はその最高限の規定を爲せるに止まるが故にそれ以下の低率なる利息を想像することも出來るが事實上最高限の利率に依らない場合は殆んどない法律は所定制限以上の利息を裁判上無效としてあつて一應質置主の利益は極めて親切に保護される樣であるが事實は吾人の想像を裏切ること太だしいものある今質屋が法律を潛つて如何に毒手を振ひつゝあるか一二を例示して見よう成程法定利率を超ゆる契約はその超ゆる部分に付いては裁判上無效であるが無辜の細民は決して辯護士三百代言と同樣に法律の運用に慣熟して居る譯ではないから彼等は目前に迫れる生活費調達に迫はれて質屋の命するが儘に不當利息を仕拂へる場合既に其處には殆んど全く救濟の途がないのである現に愛知縣に於ける質屋の質契約の一項には「質貸金利子割合は質屋取締法に依る但し十圓以上は雙方任意契約」とある之では貧者弱者たる細民に素より正當なる任意契約の出來る譯がない。

又法律所定の利率は金額の漸增に對して累減の方法を採つて居る從つて貸出金額の增加に伴つてその利子負擔を輕減される譯であるが這は決して質屋の利益とする處ではない故に彼等は假に三十圓の時價を有する質草に對して十五圓の借用を申込まれたとするときは出來得る限り之を十圓以下に契約せんことを主張するのである之れ即ち利息の增收と質草處分後に於ける利得を獲んが爲である或は又一層狡猾なる手段は質草を分割し

て各金額に高率の利息を負擔せしむることである質屋の暴利手段は啻に之に止まらない更に驚くべきは俗にオドリと稱する二重の利息をせしめる事である卽ち前掲質契約の八條に例示せるが如く「入質當月は日數の如何に拘らず一箇月と看做し利子を徵し云云」に就ては今日入質し翌日直ちに質受する者の如きに對して利息を日割計算するときは質屋は徒らに繁雜なる手數を費すのみにて得る所なきに終るを以て此點は幾分恕すべきであるが更に「受質のときは其の月一日までは利子を徵せざるものとす」との旨の文言はその反對解釋とし其の月の二日以後に跨るときは更に一ヶ月分の利息を追求することになる說明を簡單にする爲めに實例を以て示せば假りに七月末日に入質し八月二日に質受するときは七月分は固より更に八月一箇月分の利息を仕拂はざるべからざることゝなり此の憐れなる質置主は僅々三日間に二箇月分の利息を強奪されることになる天下之より大なる奇怪事はあるまい尤も這は極端な例を示したに過ぎないが實際月末の仕拂時期は勿論夏物冬物の入替期等資金所要の場合には屢屢起り易き事實である所謂オドリは啻に質屋のみならず銀行に於て手形書替の場合にも起るも此の方は日步のオドリであるから左程の非難はない質屋に至つてはその最も太しきものであるオドリは語義自踊りに通ずる斯樣なボロイ商賣をして踊らざるものは恐らくあるまい寔に善くないことだ。

（ホ）貸出金額　貸出金額に對する苦痛は前叙の如く質草が分割されて各金額に高率なる利息を課せられることもその一であるが多くは質物に對する貸出金額の低額に過ぎ質置主の受くる金額の通常質物價格の半額の半額若くは四分の一位であり又その質物價格なるものが低下となれる場合古着商に二束三文に賣却する場合の價格を標準とされることである勿論質屋は公許の營業であるから自ら損失を招くが如き貸出を爲すの必要はない又質草にも種類の如何に依り市價の動搖甚だしきものがあるから率直に彼是言ふことは出來ない併し乍ら從來の遣り方は決して正當なる方法と謂ふことは出來ない殊に流質處分に依る利得を豫想し質置主の窮迫に乘ずる樣な事があれば其處に大なる不正行爲の行はれるものと見なければならぬ。

之を要するに從來の民營質屋の營業に就ては種々の缺陥がある之

を精細に吟味することはその煩に耐えない大體に於て質屋なるものが特種營業として警察の免許と取締を受けて居り當に監督される立場に置かれてある一事を以てしてもその營業に不正の行はれ易く且吾人の要求する社會的施設としてのそれと太しき懸隔の存することが自ら諒解出來る筈である。

公營質屋の特質　前叙の如く民營質屋には幾多の缺陷があつて到底吾人の社會政策の主張に副ふことは出來ない從つて此の要求を充たすべき公營質屋は民營質屋の有する缺陷の全部を償ふものでなければならない概言すれば公營質屋は無產者の味方となるのであつて決して營利を目的とするものではない從つてその特質は凡て此等の基礎觀念から生れるものであるべきは申す迄もない。

（イ）流質期間の長きこと　民營質屋がその流期の短き爲め種々の不利益を質置主に與へつゝあることは既に前叙の如くである流期短ければ質置主は絕えず脅威を受け不當なる利息を徵收せらるゝのである從つて公營質屋に於ては流期を出來得る限り延長し長期信用を細民に與へることが肝要である佛國の施設の如く一箇年の長期に亙らしむることは最も理想とする所であるが我國に於ては伊太利、獨逸等と同じく六箇月位とするが至當であらう臺灣に於ても此の六箇月制を採り過去二年間の經驗に依れば成績頗る良好である更に流質期間內の分割辨濟の方法を設くることは質置主に對して最も親切な遣り方である次には流質物の處分に就き從來民營質屋に對して起つた苦情を芟除すべきである公營質屋は根本に於て營利を離れて居るが故に流質物の處分に就ても出來得る限り寬大なる處置を採り期限經過後と雖も相當期間の猶豫を與ふべきである因に臺灣公設質舖業務規則は流質物の賣却着手以前に於て質札を提示し其の物品の拂下を受けむとする者ありたるときは其の貸出金額及び之を賣却する當月迄の利息を計算して特に之を拂下ぐることを得る旨を規定し此趣旨の實現を期したのである。

（ロ）損害辨償のこと　民營質屋の短所は卽ち公營質屋の長所であらねばならぬ不可抗力に依り保管質物の滅失に對しては勿論その責に任ずる必要はないが其他一般に質物の亡失毀損に對しては充分その責任を負ひ損失を辨償すべきである從つて又公營質屋においては倉庫の設備を完全にし蟲喰、鼠切

汗染及び温氣觸等に對する豫防手段を講ずべきである倉庫の完備は一面に於て質置主に安心を與へ質屋信用の基礎となるものである斯くてこそ社會政策の本旨に叶ひ眞に無産者の金融機關となり細民の味方となることが出來る。

（ハ）**利子の低きこと**　利子の低きことは公營質屋の貴重なる特質である這は殆んど絮説するの必要がない位である然らば如何なる程度に定むべきやと謂ふに之れ又一律に論ずることは出來ない有體に謂へば現在の民營質屋よりも低ければ低きだけその程度に從つて吾人の要求を充足することが出來る勿論無利息となすを最も理想とする所であらう併しながら公質は社會施設であつて彼の貧民に對する寄附の如き全然慈善的のものとは多少程度上の差異が存じて居る以上全無利子の奉仕を爲すの必要はあるまい現に瓜哇の官營質舗の如きは吾人の提唱するものとは稍その設立の趣を異にして居るが相當の利を收め其の質舗收入は政府の有力なる財源を爲して居るのである佛蘭西の如く質屋收入の全部を擧げて慈善事業に投すると謂ふが如き徹底的な遣り方ならば無利息となすと何等擇ぶ所はない夫れは畢竟主義の問題に歸着するのである我國に於ても臺灣の如く民營質屋の存在を認むるならば無利息となすことは其の主義と兩立しないことになる蓋し無利息主義を何處迄も押し通すとすれば民營質屋は全く競爭力を失ひその存在を失ふに至るは火を睹るよりも瞭である吾人は此の意味よりして公營質屋を漸次普及せしむるの方針を採るならば相當の利子を付するを以て至當となすのである尤も例外として貸出金の災害に因りたる用途に使用せらるゝ場合の如きは無利息となすべきである利息に關する一の問題は貸出金額の大小に應じ利息に差等を設くべきや否やである從來民營質屋の採れる方法は金額漸増利率漸減であつて吾人と雖も之に對し何等の缺點を認めないが公營質屋が非營利主義に立つ以上殊更此の如き差率を置くの必要はない金額の多少に拘らず一律の利子を以てすることは事務整理上の簡潔てふ點より謂ふも尊ぶべきことである又吾人の經驗によるも之にて曾て不都合を感じたことはない因に臺北公設質舗は金額の大小に拘らず月一分五厘（年一割八分）臺中公設質舖は月二分（年二割四分）である尚一つ殘る重要案件は利子の付け方である吾人は民間質

屋の如く只の一日にても入質する以上一箇月分の利息を取ることに就ては日歩勘定主義を採らざる限り格別異議はないが月跨りの場合更に一箇月分の利息を奪ふが如きことは絶對に之を避くべきである之を避けずして低利を標榜するは太しき矛盾である從つて利息勘定に對し月を以て之を計算する習慣を採用する以上月跨りの場合ォドリを取らざるやう一箇月を三十日として計算すべきである。

（二）貸出金額のこと　質屋は細民を相手とする商賣であるから大口貸出のあるべき筈がない此點は民質公質共に變りはない若し公質に於て大口の貸出を許すことになれば富者階級の多く利用する所となり全く設立の趣旨を沒却するに至るであらう之を外國の實例に徵するに最低最高限を定むること伊太利の如きがあり最高限のみを定むること佛蘭西の如きがあり又最低限のみを示すこと瓜哇の如きがある其他の諸國に於ては何等の制限を設けない我が臺灣は伊太利と同じく最低を一件に付五十錢とし最高限を三百圓と定めてある尤も特別の場合には此の制限を超ゆることも出來る旨の規定がある貸出金額を一件につき五圓以下若くは十圓以下に限ると云ふが如き定め方も一考案たるに相異ない。

母性及び兒童の保護

東京市の新社會施設

東京市が近年母性と兒童保護の問題に眼醒めて來た事はこの方面の施設費の十二年度の豫算として經常費が十一萬圓、臨時費が三十萬圓、都合四十一萬圓の金を費すと云ふ事でも判る政治に眼醒めんとする婦人はかうした市の豫算に對して考慮をめぐらすことが必要であらうそこで此の四十萬圓のうち三十萬圓は全く新しい事業に用ひらるるものでそれは悉く子供の幸福と母性保護の爲である。

第一は東京市内に六歳未滿の子供が二十六萬六千七百六十四人あり滿一歳の乳兒が六萬三百五十三人で細民の子供が一萬人以上ある處が市私立の託兒所で現在預かつてゐる子供の數は約千五百人で託兒所の數が二十五箇所しかなく八割五分は預ける所が無いので今後

三箇年の間に毎年三箇所宛殖やして必要な區には一箇所位宛設けるやうになるさうだ其次に一歳未滿の乳兒保育でこれは二月開いた富川町の託兒所と大塚坂下町の現在の幼少年保護所が移轉後そこに乳兒專門の預所を設けるさうだ其の次が不良少年の問題でこれは池袋に新築中の幼少年保護所が八月から開かれ性行相談部を兼ねてやる事になる第四の問題は健康な子供の相談所で二人の衞生技師に巡回看護婦を添へて十五區に出張所を十五箇所設けて一週に二回位巡廻するやうになる第五は産院でこれは深川東森下町に今年の夏頃大規模のものが新築される第六は子供の遊園地で全然大人の入ることの出來ないものを之れから今年度に四箇所設けるそして五人の運動指導員を置いて遊戲や體操を敎へるやうにする第七は兒童倶樂部で之は京橋區の寄付で同區に設けられ專ら圖書室や娯樂や訓練やを主とし兒童敎化の中心たらんとするにある斯うして母性及び兒童の社會施設は段々と整つて來る。

姙産婦の保護と産院

歐米各國の施設と日本の設備

歐洲大戰後世界各國とも著るしく乳兒や姙産婦に對して注意を拂ふ樣になつたのは歴然たる事實である産院や乳兒院の新設改良及び姙産婦兒童保護法令の發布改正などは國民保健に關する案件の中で最も重要なものになつてゐる之れは言ふ迄もなく次代の國民を剛健に育て上げるといふ點において姙産婦や乳兒の保護が重大な關係を有つてゐるからである。

大戰の結果歐洲大陸では肉體的に健全な國民を慾求することが熱烈になつたと共に精神的に穩健な民衆を育て上げることの必要をも切實に感じてゐる夫れには無産者階級の出産に對する無知や無資力が原因して姙婦の死亡することや社會の安寧を害する白痴、癲狂、不具者などを産み出すといふ悲しむべき不幸を輕減することの必要を痛切に感じた結果である。

世界の文化國と云はれる國の內で姙娠及び分娩の爲めに死亡する率の最も高いのは西班牙で人口十萬に對し二〇最も少い瑞典では十

萬に對し六を示し北米合衆國は約十五である然るに我邦では大正三年より七年までの平均に依れば二三・六と言ふ世界無比の最高率である同時に我國の乳兒の死亡に就ても最近一ヶ年の産出生數は約百八十萬名であつて其中一歳未滿兒の死亡は約三十萬名で六分の一の小生靈が空しく消滅したことになつてゐる産褥に於ける死亡は産褥熱に因るものが大部を占める之は不潔なる産褥の取扱より起るのであるから其の死亡は一般國民殊に母親の無智にも依るであらうが最大原因は社會的設備の不備にあると言はねばならぬ之れに反し産婆の普及並びに保護機關の設備の行屆いてゐる國ほど好結果であると言ふことは世界的統計が明らかに證明してゐるのであつて此種社會施設の必要は極めて明白だ。

姙産婦の保護

世界各國の實況

今姙産婦保護に關して歐米諸國の狀況を見るに………

●●佛國　では婦人勞働者は出産前後八週間は勞働に從事させないことに法律で決めてある巴里には褥床二百を有する市立産院があつて親母共濟保險の加入者は貧富の如何に別なく産後四週間は補給されることになつてゐる。

●●英國　では姙婦に對する法規は戰前までは別になかつたが戰後その施設を大いに改良し母親學校を完成して之を公的國設とし私生兒姙婦のみを祕密に收容する産院を更に新設して勞働婦人保護に關する立法を見るに至つた。

●●墺國　でも戰前には別に法規はなかつたが帝政崩壞後の社會主義的政治は此の方面に努力を集中して公設の産院がウキンを始め各地に普及し姙娠滿七ヶ月以後の者を收容してゐるがヤハリ私的關係の姙婦が比較的多い尙ほ社會保險法に依りて産後四週間は一般疾病給與金の一倍半を給與してゐる又退院した母親は其の乳兒と共に短期間育兒院に止まることも出來るのであつて其處で私生兒は母親と離れる場合も多いのである。

●●獨逸　は一九〇八年八月二十八日以降法律的に娠婦を保護する事になつてゐるが其の要點は婦女勞働者は産後最低六週間の工場使役を禁じ且つ疾病給與金と同額の産褥給與金を補助してゐる農業でも産後四週間は働かせられない規定が設けてある各市とも姙産婦保護の設備はそれぞれ行屆いてゐるが伯林では産後十六日より三箇月間引

受ける機關があり又結婚せずして母親となつた場合には兒女とも一緒に八箇月保護を與へる保育所が伯林その他各地にそれぞれ設けられてあるバーデン・アニリン曹達工場の如きはその工女のために特別に產院を設けてゐる。

伊太利　では工場勞働に從事する婦女は產後四週間は使用されないことに規定されてある又資本家と被傭人と同額を醵金して產褥婦へ補給してゐるのもある。

瑞典　でも產後四週間の工場勞働を禁止しストックホルムの王立育兒院では三十の褥床を有し年々二百名內外の產婦と六百名以上の乳兒を收容し二二五の褥床を有する市立の產院では年々四千名以上の產婦を收容してゐる。

洪國　は法律を以て產後四週間從業を禁し尙は疾病給與金に準じて六週間分交付することを規定し保護を要する產婦は產婦保護所に收容して乳兒と共に二箇月間も滯留して完成に健康の恢復を圖らせるように成つてゐる。

北米合衆國　には全國を統一する法規はないが各州何れも社會事業が發達してゐて公私設の產院があるのみならず姙婦の健康狀態を見舞ふところの巡回看護婦の制なども設けられてある。

瑞西　チューリッヒ市では市條例により年收二千フラン以下の家族の產婦は公立產院で公費を以て分娩し得る規定がある又法律に依つて產褥婦は六週乃至八週間保護される事になつてゐる。

その他　白耳義、諾威、西班牙等の諸國にては或は法律により或は公私立の慈善團體に依つて姙產婦救療保護のために夫々大なる注意を拂つてゐるのである。

我國の保護施設

僅に曙光を見る

我邦の現況を見るに大正七年までは別に具體的な法律的根據はなかつたが大正七年に新官制が出來て保健衞生調查に關し專任職員が置かれることになり大正九年九月「兒童及び姙產婦保健に關する件」として諮問される事になつて漸く姙產婦保護に關する社會施設の曙光を見るに至り大正十年初めて衞生局保健課に「姙產婦及び兒童衞生に關する事項」なる一項が加へられたといふ譯である。

第四十五議會に於て兩院の協贊を經た健康保險法には婦女勞働者が分娩したる際には分娩費二十圓を給し分娩前後勅令の定むる期間は一日賃金の六割を支給されるこ

とになつてゐる大正十一年三月には女教員保姆の分娩休養の規則が制定せられたそれらの刺戟を受けて各都市各地方に於ても姙産婦及び兒童保護に關する施設が漸次發達して來て大正九年現在の調べでは施設數四四三箇所（托兒所などを含む）資產五百二十萬三千三百二十五圓之れが一箇年の經費百八十一萬五千七百八十二圓而して其の職員數二千九百三十四名であるが今日では更に一段の進步を見てゐるのは言ふ迄もない。

産院としては東京本所にある賛育會産院、大阪市立産院、澁谷赤十字附屬産院などが重なるものでその他六大都市を始めとして各府縣に於ても愛國婦人會支部、日本赤十字社支部などの援助により漸次普及されつゝあるのは社會のため喜ぶべき現象と言はねばならぬが實際は僅にその緒に就いたと言ふに過ぎぬので賛育會産院以外は殆んど性質上社會的實効を擧げてゐるのは少いのである。

産院設置の主旨は貧困又は私生兒などの關係で分娩を自宅でするに非常に苦しむ場合に收容するので外國に於ける例を見るに分娩七箇月以前の者は概して收容しないことになつてゐる人口十萬の都市に於て出産率人口千人に就て三五%であるとすれば一箇年三千五百名生れる割合でその內自宅分娩の困難なるものゝ率を現況より推定して最底百分五とすれば百七十五名となり之を産褥に十日止め置くとして此數を十倍し三百六十五日を以て除すれば一日の在院者數が解る卽ち人口十萬の都市に於ては一日五名を收容し得る無料産院を必要とするのである。

大連慈惠病院へ

奬勵金五百圓の御下賜

本年二月十一日紀元節の佳節に當り成績優良なる日本全國及び朝鮮、臺灣、關東州、樺太等の社會事業へ事業奬勵の思召を以て奬勵金を下賜されたが其の團體數は四百五十七、下賜金額は十五萬二千五百圓で關東州においては柴田博陽氏の經營する大連慈惠病院が此の恩典に浴し金五百圓を下賜された柴田理事長の面目此上もなしと言ふべしだ柴田理事長は此の恩典に接し感激の淚を湛ゐ而して此の御下賜金を如何に有益に如何に有意義に使用すべきか愼重に考慮を廻らし恩賜紀念として醫療器を購入するか夫れとも恩賜娛樂室でも設けて患者の慰安に供すべきかと種々に思ひを致したうへ差當り好工風の浮ばぬため右御下賜金を恩賜基金として別途の基本金を作ることにしたさうだ尤も基本金として預金し利に利を加へて永久に積立ておくとすれば今日內地の各府縣において設けて置くやうな恩賜財團と同じ結果を生じ折角の恩典も活用されずに徒らに利殖を增大するのみで少しも意義をなさぬ事になるが柴田氏は此點について別に特殊の考があるとのことだ何にしても關東州內の社會事業たる大連慈惠病院に奬勵金の御下賜があつたのは喜ぶべき次第で之がため貧弱なる州內の社會事業も段々發達し進步して夫々優良なものと成ることであらう。

生活の單純化

社會局第二部長　田子一民

世の中は分り切つた事を言ふ所に面白味がある。近頃流行の生活改善とか消費節約とか云ふことは餘りに事理明白で、反對も賛成もあつたものでない。然るに此の明白な事に對して、宣傳の必要があつたり、宣傳されなければ行はれず、宣傳しても容易に徹底し難いと云ふのであるから、世の中といふものは中々面白いものだ。

いつの世でも時代でも、又どの國でも社會でも、奢侈贅澤に流れて、人類の精神や身體が健全になり、また向上した例はなく、國家が興り、民族が發展した事はない奢侈は人の心を腐らし人の骨を削り行く。之は言はずとも説かずとも知れ切つたことであるが夫れがどうしても戒められない。中には飽食美衣といふことが文化生活であると心得てゐる不心得者も少くない。佛家などでは戒律が嚴しく多く粥を啜り、雜炊を食ひ、肴や肉を斷ち、蔬菜を多く用ゐたものだ。嘗て米價騰貴の際、節米奬勵が試みられたことがあるが、斯ることは古くから行はれて居たのだ元來日本人が米を主食物と考へ之れに執着するのは愚の至りである麥飯もよし、粟飯もよし、饂飩もよし、蕎麥もよしといふ考へにならなければならぬ。此等の雜食は熱量（カロリー）に於て米食と何程の相違があるか。生活が單純化されて何んなものでも喰べられるといふ所に寧ろ趣味がある。複雜生活が決して文化生活の總てゞはない。

卑近な例であるが、吾々が地方へ出張して、午後一時から講演あるといふので屢々招かれて行くとさて晝飯には美裝した女達が二の膳の晝飯を悠々と運んで來て、先

づビールの酌などをして廻り、大事な飯を却々運んで呉れず、一時過ぎてもあたりの人々はビールの滿を引いて居るといふ有樣、第一目的の講演などは第二目的とされて、折角の講師も晝飯の客となつて仕舞ふことがある。かゝる場合には汽車辨當一本に澁茶一碗で事足りるのである。遠來の講師に辨當で濟して戴くのは恐れ多いと心配し、食事の爲めに永々しい時間を費すといふは、誠に愚の至りである。之れなども簡單にして第一目的たる講演を徹底させるが可い又或る場合には、講演が濟むと歡迎會を催したいから、講演は何時頃までに成るべく短く切り上げて呉れといふのもある。歡迎も結構だが、然かし折角遠方から來た講師が御馳走や歡迎會の爲めに思ふ所も言ひ得ないといふのは殘念な事だ、イヤ馬鹿氣たことだ。斯る弊風も改めて欲しいと思ふ。

近頃宴會を茶菓で催ふす風が行はれて來たが最も良いことである昔は生活の單純化がよく行はれた尤も侯伯や伊達者などには豪奢寛濶の風もあつたが、一面において士風を維持するが爲めには隨分思ひ切つて生活を淨化した。鎌倉時代の尙武重節は簡易生活の結果で史を繙くと種々な挿話もある。江戸初期でも簡朴を旨として家康などは固く奢侈を戒めた。元祿の豪奢を受けて其後士風が稍廢れたが夫れでも八代吉宗は之を引締めて世を立直した。尤も元祿時代にも山鹿素行などといふ偉い人が出て其の書いた物などには士風の簡素質朴の風が窺はれる。岡山の池田新太郎少將などは、大名が一汁一菜なれば百姓は鹽をも嘗められぬ儀なればとの趣旨から一汁二菜としたが、而も一菜は食しなかつたと傳へられて居る。其他肥後の細川銀臺だの、米澤の上杉鷹山だの津輕信政だの、白河樂翁だの、水戸烈公だのと云ふ名君で、士風を興し民政に努めた人達は、何れも簡易生活の宣傳者であり、實行者であり、そしてよく治績を擧げて居る。私の鄕國たる巖手縣の僻村のうちには、米の產額少なき爲め米よりも他の物を常食とする處もある。かゝる事例と自分の謂ふ所の生活の單純化とは多少意味は異なるが、何不自由なき身でも、食物に執着せず之に支配されない心掛は必要であると考へる。

白隱和尙の『夜船閑話』中には白幽と云ふ仙人が霞を食ひ露を吸ふて長命して居る話が述べられて居るが、霞を食ふとは清淨な空氣

を吸ふ意味で、露を吸ふとは則ち清新な水を飲む意味であらうと思ふ。之を考へて見ても飲食の單純化は長命の秘訣であるかも知れない。何れにしても美味は身を破り心を重からしめるものであると云ふのが通則である。之れを無理に面倒にするのは文明病と言はなければならない。かうなると文明も呪はずには居られない。凡そ人類は自然の環境が其の生活に適應すればこそ發育したもので、光線や空氣や、水や、食物などは、自然の儘に於て人類に適應する樣な狀態にあるのである。之れを悟らずして故らに生活を複雜にし、そして自然に遠ざかるやうにするのはつまり人類の生活力を弱めるもので、實に愚の骨頂である。

粗食は恥ぢるに足らないと同時に又誇るにも足らない。人間は元來適當な營養素を攝取するのが必要で、又單に營養素の分量ばかりでも滿足せられず、之に或る調味を加へられなければならない。唯何事も複雜華美を極めることが人生であるかの如く思ひ、相競ふて生活を複雜化し、殆んど底止することを知らないのが遺憾であると云ふのだ。之は惟ふに人類の優越慾から來ることであらうが、こんな事に優越するよりも、他の方面例へば智識や德操に優越するやうに心掛けたいものである。

食慾は人間の最初最終の慾望で之を最も完全に滿足させると云ふ事、そこに人間としての重要な意義があるに違ひない。朋友相會した時は、澁茶一服、香一炷でも事足りる、又必ずしも飲食を以てせずとも可いと言ひ得るが、さて實際はなか〳〵さう手輕くは出來ず珍味佳肴を陳べ、懇談歡話を試みて興最も深きを覺ゆる。されば人間の生活は自然的慾望を滿足さすのが第一着で、此處までの境涯は物質的な肉體的な自然的な狀態の事であるが、それを一歩進めて人間の精神的接觸があり得るのである。そこに一碗の茶、一瓢の酒を置かずとも、互に相對して主客睽然、談話悠々として盡きず、心境の胖かさが顯はれるのは誠に奥床しい至りで、山海の珍味を陳べたよりも更に一段の趣味があると思ふ。人間の心境は、有るも可なり無きも亦可なり、心が物に泥まず物に煩はされない所に無上の興趣がある。吾々が他人の宅を訪ねた時、主人がアタフタ室内の取亂れたのを取片付けるのは、禮を以て客を待つ心情の現はれでもあらうが、それよりも、客來れば直ちに

欣然として之を迎へ、室内讀書亂抽の所に通し、平然悠然として對する態度は、更に親しく懐かしく感ずるものである。要するに其の心が物に依つて煩はされざるを至上と言ふべきであらう。飲食の如き殊に然りである。生活の單純化は此に至つて初めて眞の妙味と意義とを見出すのである。

小學には飲食男女を切要と爲すと説き、武教講錄には飲食の末に至るまで用意甚だ周到に書いてあるが、寧ろ此等は形式に拘泥して心を忘れて居ると云へる。それよりも一抹の茶煙閑として心境犖然たる所に妙味がある。かゝる意味の生活の單純化が行はれるに至つて世は始めて愉快になる。

以上は食について述べたのだが衣服にしても、居室にしても、住宅にしても、同一の理法が行はれて欲しい。衣類は何人も美にして輕快なのを欲する、敢て之を醜き物にするの要はないが、之に執着し、之に拘泥し、之に心を惹かれ魂を奪はれるに至つて厭ふべきものとなる。此にも又生活の單純化が行はれなければならない。住宅居室も規模宏大なものでありたいと願ふが人情だが、同時に願はくは我心を快然たらしめ閑寂たらしむるものでありたい。家を構ふる必ずしも山村水廓でなくとも可い庵を結ぶ人馬雜閙の處たるを妨げない。只彼に拘し此に泥することの甚だ低きを思ふのである。

今や社會政策は社會正義を要求して居る。我慢、我利、自己本位の生活は之を許さなくなつた。隨つて何人も自遜自制すべきであるが、それには形式よりも先づ心の純化を専一に努めたい。飲食、衣服、家居に泥まないものにならなければならない。文學も、宗教も藝術も此心を養ふに於て人生に益あるのである。生活の單純化を穿き違へて形式的の消費節約に沒頭してはならない。須らく精神形式兩方面に着目すべきである。

救世軍滿洲總本營

大連市内西廣場の救世軍大連小隊では近く現在の舊舍を改築して新たに三階建鐵筋コンクリート式の新會館を造るべく曩に萬國本營其他と打合せ中であつたが總計費三萬五千圓中萬國本營より一萬圓を支給されることゝなり五千圓は在滿軍士間にて據金すべく其他の二萬圓乃至二萬五千圓は一般の寄附に依り求むる筈である右會館は遲くも本年中には竣工さす方針の由であるが同會館落成の曉は其處に滿洲救世軍の中心たるべき救世軍南滿本營が置かれ恰も東京本營其他に於けるが如く種々の社會的事業が計畫される筈で差當りては人事相談所、婦人宿泊所など設けるさうである。

社會制度と男女の情操

平民病院長　加藤時次郎

「衣食足って禮節を知る」とは至極名言である。精神主義者が口を極めて論じても所詮は肉體を離れては何物も存在しない、肉體を養ふと云ふことは人生の基調である人倫も道德も皆こゝに生ずるのである。道德も人物も「食ふこと」を肥料として人生の上に咲いた花である。「食ふ事」が充足しなくては人倫も道德も衰頽して終ふ。これは當然過ぎる程明かないことである。「渇しても盜泉の水を飲ます」といふ言葉は立派な言葉ではあるが、餘り立派過ぎて人間社會には實行が出來ない、或は特殊な人間には實行可能かも知れないが、一般の人々は渇すれば盜泉の水を飲むのが通常である。渇して盜泉の水を飲む人間の道德性を批難せんとする前にその由って來る根源を敲かなければならない。

此の原理を社會に當て嵌めて考へてみると何うなるか、云ふまでもなく、社會生活から道德や秩序などを要求するためには、人間をしてさうなることの出來る社會を與へなければならない。而してその社會制度の基調となるものは經濟問題である。若しその社會制度が不合理なる基礎に立ち經濟問題が十分に充足してゐなかつたならその人間の道德に缺陷が生じ、社會の秩序が亂れてくるのは當然である。さう言ふ社會に生きてゐる人間から道德を要求したとて到底充分の效果を上げ得ないのは是れまた明かなことである。而もその道德を恢復せんとするには先づ三つの根本から改造してかゝらなければならない。不合理なる社會制度に於て尙且つ道德的美衣に覆はれてゐるかの如きものはその實美衣の中に包まれた醜い虚僞なのである。如何に道德的たらんとしても環境がそれを許さなければ仕方がない。詰りさう云ふ社會においては不道德が却つて道德的なぞゝ見做されてゐるのである。

如何に立派な生活を仕樣としても社會の根本が誤ってゐる以上そこに生きてゐる人間が理想的な生活者となることが出來るものぢやない。欺したり僞つたり苦しめたり人殺しをして得た金で如何に立派な道德的生活をしたと言っても

其の行爲が美しいもの道德に適つたものと何うして言へよう。現在に於てはこの誤れる基礎から災された病弊が深く社會に侵入してゐるので勢ひ人間の道德性を要求することの出來ない有樣になつてゐる。今のまゝでは何んなに道德の改善を要求しても出來るものではなく、それよりも先づ根本となる所のものを改造しなければならぬかう言ふ點から考へても分るやうに、現在の社會狀態においては男女に完全な情操を求め樣としても到底出來るものではない。

　賣笑婦から紳士淑女の生活に至るまでその男女關係に於て純潔無垢な情操を求めることは程度の問題であらう。比較的情操的であるとは言へるにしても完全に情操的であると言ひ得るものは少い。これは社會制度から來る結果である如何に情操的ならんとしても食ふ爲めにはさうも行かないといふのが現在の狀態である。之は人間の生活が社會制度の爲めに拘束されてゐる一つの事實を示すものである。現代の社會に於ては金の力は萬能である。この金を得若くは食を得て安定した生活を得るための手段としての結婚が往々行はれる斯る手段のために結婚した夫婦間に情操などのある筈がない。たとひ純潔な戀愛を根底として結合した男女の場合と雖も女子は從來の因習通り自分の生活の保證を夫に一任してゐるのである。斯る狀態に甘んじてゐる女子の貞操がどの位ゐの深さにあるかは推案に難くはない。經濟問題と是等の問題とを區別して考へようとする人があるがそれは間違ひである。

　男女の戀愛關係をかくの如く解剖することは許されないことであると云ふ人があるかも知れないが階級を異にして生活してゐる男女の結合は純粹なるものゝみであるといふことは出來ないのであつて食ふ爲めにはどんな事をもせずにはゐられないのが現在の有樣である。食ふ爲めの苦しさと夫れから地位を求め名譽を得ん爲めに金の必要なることは現在何人と雖も好く知つてゐる所であらう。

　それで現在の社會狀態に於て純潔なる情操の存在する男女結合には必然的に相互が經濟的に獨立したるものゝ夫れでなくてはならないと云ふことによる。この例を私は夫婦共稼ぎをして生活をつゞけてゐる男女において最も確實に見得るのである。かくの如き夫婦間に於てのみ初めて純粹なる情操を見ることが出來る。勿論社會の一

部に貞操固執の女子が絶對に無いではないと云ふ事は事實と認めるのであるが、それにしても其の貞操的要求がどの程度にまで自己の內的要求となつてゐるものであるかとなると、餘程疑はしいものがある。社會的地位や名譽を維持する爲めに、或は生活の保證を得るために、堅く貞操を守つてゐるものはあらうが、併しそれらは專制的に課せられた義務の樣なものであつて眞の要求とはなつてゐないのである。又賣笑婦の貞操觀念が普通の女子のそれに比べてより純潔であり强固であると考へられる場合もある。最も多くの男子に接しながら、その多くの男子の中から一人の男子を選定して自分の情夫と定め、全身的愛を之れに捧げると云ふ事實より考へる時は、普通の神聖なる結婚生活によつて一人の男子に身を任してゐる女子よりも、此方が確固たる貞操意識があるとも云へよう。然しながらこの場合に於ける賣笑婦の愛は極めて變體的であつて、その愛の對照としての男子の多くは女性的の弱い氣質と體質を持つた者であるところから察しても解る樣に、賣笑婦の熱愛が必ずしも强い貞操觀念の現れとしてのみ考へることは出來ない。生活自身が奴隷的であり屈從的であるのにそこからどうして純潔な貞操が現れよう。

扨て其結論として考へて見るとつまり情操と云ふことは人間の自然的必然的要求の場合に於てのみ最も意義があり又尊敬されるべきものであつて、情操が一つの固定したる觀念となつて强制的命令的に人間にのしかゝつて來て、それを支配する樣になつてはならないそれには現在の社會狀態を離れて情操と云ふことを考へることが出來ないと同時に、現在のやうな社會狀態の下において殆ど情操の存在を信ずることは出來ないであらう。情操の活動する餘地の無い程に人間の生活が食ふために惱まされてゐる。されば純潔なる情操を希望するには先づ社會を改造しなければならない。例へば謂ふなら現在の結婚で其の結婚の成立條件として世人は戀愛を重んずべしと言ふが、然し戀愛そのものは常に變轉極みなき感情であつて當にならない。戀愛がかく一時的のものである以上、それを根柢としてゐる結婚も亦一時的と云はなければならない。而して情操は男女が戀愛關係にある間にのみ適用されるべき道德であつて、恐らくこの場合に於ては道德と云つても男女相

互の間に各内的に感ずるものに過ぎないから、隨つて外部からの拘束とはならない。そしてその場合に於ては情操的であることが最も自己に安定を與へてゐるのであるが、一旦戀愛の終結又は破壞といふが如き結婚生活の破綻を來たした後には情操と云ふ道德は當然消失すべきものである。

終りに吾々は情操を區別して精神的情操とか肉體的情操とか云ふ風に考へることは出來ないと信ずる。無貞操な肉體的賣笑婦に精神的貞操の信じられないと同時に精神的に愛的享樂をする女子又は男子も同じ樣に情操的であると云ふことは出來ないのである。精神と肉體とは分離が出來ない。情操は肉體と精神とを統一した一人間全體から生れ出るのである。肉は許すが心は賣らないなどと云ふ事は一種の申譯で決して完全な貞操と云ふべきものでない。

結婚と壽命の關係

死亡率は獨身者に多い

結婚生活と壽命との關係については米國政府の當局が可なり綿密に統計してゐるが夫れを見ると妻帶者が獨身のものよりも長生きであることは疑ひを容れない死亡率はあらゆる年齡を通じて後者よりも前者に著しく少く殊に中老時代においては妻帶者が目立つて殘存してゐる詳しくいへば二十乃至三十歲の人については死亡率は千人中妻帶者は四人二であるに對して獨身者は六人六であり次の十年間については六人弱に對する死と十人更らに四十乃至五十歲では九人半に對する十九人半といふ相違を示してゐる五十歲臺の人については妻帶者は獨身者よりも十一人だけ多く殘存し六十歲臺の人については十九人多く長生する。

之れについては米國醫學協會雜誌が註釋を加へてゐる通り勿論妻帶者は本來比較的健康の勝れてゐる方の人々でその長生は必ずしも結婚の影響ではないともいひ得る何故かといへば不健康な人や元氣のないものが結婚後の負擔と責任を回避して一生獨身で終りがちなのは否むことのできない事實だからである併し結婚生活は獨身生活に比すれば一般に規則的である妻

は夫の健康に對して概して念入りに奉仕してゐる夫も家族を念頭におく結果不養生を慎み危険を避けてゐる此くの如き衛生上の有利な事情が長生の原因となることは疑ひなく右のやうに妻帯者の死亡率が獨身者の僅かに半分に過ぎないのも要するにまた主として之れがためでなければならない。

然るに女の方については結婚は却つて死亡率を増加してゐる恐らく出産の危険からであらうが米國政府のこの死亡統計は二十乃至三十歳の女についての死亡率は妻と處女とが五對四であると算出してゐる尤もこの女に關する數字は結婚生活の利害を論ずる材料として必ずしも滿足ではない何故かといへば二十乃至三十歳の女では若いものゝ方が處女であり妻たるものは若くとも概ね二十五歳以上の年長者だからである現に三十歳以上の女については妻の死亡率は獨身の女より少いことを證明してゐる但しその差は男よりも少い。

洋装兒童と腸疾患

子供洋装全盛の今日一方衛生上から美觀上から之れが反對論も却々盛んであるドクトル竹野芳次郎氏の如きは衛生の立場から最も熱烈な反對論者である其の理由は此頃洋服を着て居る子供に限つて腸疾患に罹り下痢をして居るものが多いと云ふ事實を認めたからである罪は洋服そのものにあるか之れを着用させる母親の無知識又は不注意に依るか何れにしても感心せぬと云ふのである素人が見ても日本のキモノとは全く異つた洋服を着て居る子供の大抵は腰から下が見るも寒さうで事實腹部脚部を冷却させて居ることは爭はれないけれども之が爲めに子供が病氣に罹り又は病氣に罹り易い點に氣付いてゐる親達が幾らあらうか之は子供洋服の流行に就て家庭の一考を煩はすべき問題である今一つの反對論は日本の子供洋服は美の點から見て大抵成つてゐないと云ふ主張である元來日本キモノと西洋服とは出發點の異つたものである日本キモノは裁縫の仕方が一定してゐて部分部分の寸法さへ定めればそれ以外何等の工夫を凝らす餘地がない又縞柄色合等も一定してゐてリボンをつけるとか刺繍を施すと云ふ餘地は洋服とは全く比較にならぬものである故に洋服ならば仕立てる時に子供がそれを着た有様それを着て活動する形狀を直覺的に想像し其等の點に就て大に工夫すべきものであるのに日本キモノに慣れ來つた母親達には洋服の長所たる自由なる工夫を毫もしないものが多いそれゆゑ洋服を着た日本の子供の九分迄は美觀上成つてゐないと云ふのであるが斯る事柄も研究すべき問題であらう。

社會問題彙報

一番成績のいゝ社會事業

大阪の社會事業中一番成績を擧げて居るのは細民救助の方面事業である此の事業の始められたのは大正八年一月であつてそれ以來法學博士小川滋次郎氏の熱心な指導で事業は日一日と成績を擧げ昨年末まで四箇年間に生活育兒、衞生、戶籍、人事、家事等の相談指導をなしたもの五千九百十四件、病床慰問、治療券交付、姙產婦乳兒保護、行路病人の救助等が四萬二千四百七十八件、育兒委託、浮浪者救濟、迷兒保護、學用品給貸與、孤貧兒救濟、學校への世話等育兒や奬學に關するもの四千四百三十七件、借家周旋、奉公世話、養子緣組の世話、歸國の世話等周旋紹介に關するものが一千九百四十三件、寄留屆、轉籍屆出生、死亡、其他戶籍整理に關したもの七千四百〇七件、生活費一時給與、入院料一時給與、訴訟費補給、入浴券、理髮券、廉賣券等金品給與に關したもの八萬七千四百四十五件に達し何れも成績良好とのことだ。

此外葬式の世話や喧嘩の仲裁養老院行き等の世話をなしたもの七千五百三十四件、以上の合計十五萬七千百五十八件に達して居るこれ等は單なる數字の上に現はれただけでその內容は一々これを知ることは困難であるが市の內外に三十五方面委員を置き全く無報酬で濟生救民のために努力して居る町內有力者の勞を多とせなければならない是等各方面委員の手で救助を受けつゝある細民の戶數は九千九十五戶三萬五千三百人であるさうな。

少年少女の小公園增設

大阪府では少年少女に充分飛びめぐる小公園の必要を感じ府の都市計畫課で「一つの公園に集まる子供はどの位の遠くから來てゐるか」に就て調べた所が平均五町以內といふ事であつた斯うなると尠くとも十町宛の間隔を置いて一つの公園がなければどの子供にも充分遊ぶことが出來ない事になる大阪市には現在十一の小公園があるが此割合でゆくと五十箇所を要する事となるので將來これを實現する意氣込みで先づ手始めに大阪築港附近に二萬坪、堀川監獄跡に三千坪の小公園を設け櫻の宮公園を擴張し猶は住友家が開放した天王寺の茶臼山等が公園となり運動場となる事になつた別に亞米利加邊で實行してゐる小公園に集まる少年少女の遊戲や體操を指導する女子巡回敎師を置く事に決定したさうだ。

國旗デーと國民三大節

使命の遂行に對し優柔不斷であるとの非難があるので奮起した大連在鄕軍人分會で二月十一日の紀元節に意義ある國旗デー講演會を開いて大いに活躍振りを示した事は小にしては同分會のため大にしては國家のために祝福すべき事であるが希くば之れを機會に今後此種の運動を積極的にやつて貰ひたい。

當日講演會の席上で高柳中將が正月元旦には神佛詣で、紀元節には國旗デー、天長節には菊花デーをやつて國民に三大節を意義あるものにしたいと話したが此れは實に結構な事で大連がその範を示し之れを內地に及ぼしたいものだ而して此の如き社會運動は在鄕軍人會がこれに當るのも好いが一つ青年會若くは少年團を組織して徹底的に此運動をさしたい少年團や青年會の必須である事は今や何人も知悉する所である而して之れが吾大連に缺け

て居る事は寧ろ不思議に堪へない感がある大連の識者は此點に着服して大いに協力し之を組織するやう努力して貰ひたいものだ。

英國の田園都市的設備

英國では一八九八年にハワード氏に依り田園都市が提唱せられ先づレッチウォースに田園都市が設立されると次いでポートサンライト、ボーンヴイルの田園都市が成立し田園思潮の普及に從つてマンチエスター、リバープール、ブリストルなどの舊都市にもまた郊外園圃が設けられるやうになつた。

ハワード氏が將來の田園都市を著はしてその理想を力説するとその實行を目的とする共助會社が一九〇三年共鳴者に依つて組織せられ田園都市の候補地として前述のレッチウォースを選定したのである此の共助會社と言ふのは純粹な公共團體で資本に對する利益配當なども五分と限定しそれ以上の利益金は市民の公益に出資する規定であるから他の營利的土地會社から生ずる弊害は一つもないのであるレッチウォースは倫敦から西北三十里餘りのところで汽車で五十分である面積が四千エーカー(一エーカーは四反一畝)ほどで一エーカーに十二軒以上建築することの出來ない定まりになつてゐる各戸の周圍に庭園を設け市の周圍に大園藝場があつて新鮮で價の安い食料品を市民に提供してゐる市内に學校、俱樂部、遊園、病院等の設備あるは申す迄もなく瓦斯、水道、電力はこれを會社の直營として安い料金で市民に供給してゐる。

レッチウォースは理想的住宅地の鼻祖と言ふばかりでなく僅かの間に工業都市として繁榮して來たが會社は嚴重な規程を設けて工場建築に對し地域を制限してゐるので工業都市としても有名になつた而かも生活上何等の弊害をも生ぜないのである其の他獨逸のザッセルドルフ、フランクフォルト等の田園都市も最も模範的なものであつて米國の如きも獨逸の實況を調査研究して都市計畫に熱中し其の結果頗る發達せるゲリー經營の田園都市の成立を見るやうになつたのである。

男女眞愛と公娼制度廢止

浦鹽は赤軍によりて統一されてから後各種の制度を公布したが多少皆共産主義の色彩を帶びてゐる而して其の最も興味あるものは女性問題に關する事である今その二三を紹介せば(一)男女二人眞愛なれば父母の命を待たずして直に結婚することが出來る卽ち親族の反對があつても男女二人が市の戸籍係に届出づれば夫れでいゝのである併し自由結婚なると同時に自由離婚であるため離婚數は勢ひ增して來た前記戸籍係が昨年十二月に發表した處によると結婚比例は百分七を增し離婚比率は百分十三を減じた(二)公娼なるものは專制時代の遺物であるから勞農治下に於ては此の種類の遊興機關を許さない故に遊廓に對しては公私を問はず一切禁止することゝし其の禁止令を公布し現にそれを實行してゐる。

中流者の生活と住宅料

東京府社會課では目下中流階級の家計簿千通許りを纏めて調査してゐるが此の家計簿に依るも住宅料と云ふものが非常に重要な位置を占めてゐることが分るさうして近年家賃が生活費の三分の一以上に達するのは由々敷ことだと云ふ意味から先づ大正三年より九年までの有りと有らゆる階級に亘つて家賃がどの位上つて來たかを調べて見た。

その結果によると大正三年には一疊平均五十五錢だつたのが八年には平均七十五錢に九年には平均九十二錢に十年には平均一圓十七錢に十一年には平均一圓三十三錢に上つて來た丁度九年間に二倍半に騰貴した譯だ「所が

この値上げの理由の大部分が物價騰貴地代値上げだと云ふにあるに拘はらず大正九年後他の物價はずつと下つてゐるのに家賃だけは毎年上つて來てゐるそして此の後も現在の家賃は下りさうもないので之れはどうしても何とかしなければとても一家の主婦の家計豫算は滿足にゆくものでない」と調査に當つた係の者は大いに歎じてゐるさうである。

兒童に對する三大福音

子供の世紀も口には唱へられても未だ〳〵多くの改善すべき領域があるが今世界の兒童問題の中で最近實施され始めた三つの福音を傳へて見よう一つは亞米利加合衆國の小學校で行はれた兒童の晝辨當の事であつて貧民の子供には學校からパンや温かい牛乳や一切晝食だけを給與することになつたソコで面白いのは一定の辨當をこしらへて其の清潔法まで敎へ込んでゐる事だ更に中流以上の子供には其の費用は親から徴するも小學校に立派な食堂を設備してどんな寒冷な時でも温かいものが屹度食べられるやうに十分仕組まれてゐる此のやり方は漸次佛蘭西や瑞西の方へも行はれ始めたさうだ之れと同じやうな事で最も徹底したのは露西亞のソヴィエット政府の子供給養令だこの布告によると地方の食糧機關から子供に分配さるゝ食糧品は以後國家の負擔を以て一切無料と定められた子供に對しては兩親の階級に拘はらず一樣に無料で給養する先づ第一には嬰兒に行ひそれから十四歲以下最後に十五歲までの子供に行はるゝのださうだソコでペトログラードの給養委員會では食事の分配や献立に關する衞生の研究をして共同食堂で無料で食べさせるペトログラードの一歲から二歲までの子供の八割はこゝで滿足に愉快さうに嬉々として食事をしてゐるさうだが此の事業には婦人が當つてゐる。

その次は少し程度は低いが香港の支那人の工場に布かれた少年勞働者の保護令であるいろ〳〵な細かな規定があるが十歲以下の子供を工場で働かしてはならぬ二十歲以下の子供に重いものを持ち運ぶ仕事に從事さしてはならぬ少年にはどんな事があつても九時間以上働かしてはならぬ午前七時から午後七時以外の仕事に使ふてはならぬと云ふのでこれを實行するために兒童保護員を各工場に派して取締ることになつて居るさうだ日本の兒童保護はこの三つに比べて何の邊に位するか今後母親たちは勿論のこと兒童敎育の任にある敎育家の切に考慮を要する問題である。

大連警務署の交通整理

交通整理及び取締りに關し大連警務署に於いては之れが實績を擧ぐべく夙に留意し常に取締りを怠らなかつたが今回更に一歩を進め一層交通取締りを遺漏なからしむべく警備手薄の折柄特に警官を差繰つて交通整理班を組織し一般民衆の交通道德に對する觀念を助長普及すると共に取締を嚴にし以てその整理の實を擧げるといふ而して右整理班の組織及びその取締方法はまづ現警官中より五名乃至七名を差繰りて之れに充當し巡査部長一名を配し混雜の箇所や市内交通頻繁なる樞要地を晝夜巡視し交通上一般に迷惑を掛けるが如き點は訓戒的に事理を說いて注意を促し自發的に各自の交通道德を喚起するのであると右について山川大連警務署長は語る。

當署においては嚢に上海及び内地各都市の交通狀態視察に二名の巡査を派遣し專ら研究を行はせつゝあるが何れ遠からず相當の實驗に基く智識を齎すことであらうと思はれる之れを動機として兼ねての懸案であつた交通班を新たに設置することにしたが既に内地方面では何れの都市においても此の制度を設け而して相當の成績を納めてゐる之れに鑑みて當

市にも應用し大いに其の効果を擧げやうとして居るが實際一般市民がまだ交通に對する道德も觀念も缺如して居ることはお話にならない例へば浪速町通りを通行して見ても直ちに感ずることだが道路面に自轉車や荷車を置いたり甚だしきに至つては路上において荷物の包裝を解いたり或は放置して一向平氣である是等は大いに注意せねばならぬ云々。

滿鐵社員の代用社宅新築

滿鐵は社宅其他の增改築に大正十二年度において二百四十五萬圓の豫算を計上してゐるが之れは長春、奉天、安東縣、四平街、開原公主嶺、遼陽、大石橋、營口、其他數箇所の沿線都市に五戶乃至三十戶の社宅を新築する筈で八月迄には全部の竣成を見る豫定であると尙ほ大連は共同組及び南滿洲興業株式會社の手にて聖德街沙河口間の滿鐵用地に約五百五十戶、伏見臺の中央試驗所の裏に三四十戶朝日町方面に百二三十戶の代用社宅を新築する筈だが遲くとも本年八月一杯には竣成する模樣であるから該代用社宅の竣成した曉は聖德街沙河口に接續して堂々たる市街を形成すべく一方滿鐵の代用社宅が完成した場合は現在市內に散宿してゐる社員を或程度まで強制的に收容するといふ事であるから住宅緩和の上にも貢獻しようと云ふものである。

西公園の大連保健浴場

大正十年の秋以來建築に懸り此程建築だけは出來上つた西公園內の大連保健浴場は好況時代の設計で贅澤だとか必要がないとか內部の彩光が惡くて拙いとか經營が出來そうにも無いとか何時までグツ〱してゐるかとか兎角市民の間に評判されたが尾見理事長は之に就て語る「兎角の不評を買ふのは恐縮であるが元來彼れは大內民政署長時代に同氏發起と成りて森上、飯塚、市內藥種業有志諸氏の寄附によりて何か社會事業をして見たいと云ふ事であつたので滿洲兒童の不健康を保護し進んで健康なる兒童を造るための一方法として右浴場建設計畫となり市民の贊成を得て思ひ立つたものである世評は浴場に對する親切より出づるものであるから市民共有のものとして所期を遂せしめて貰ひたい」云々。

尙ほ市田氏の語る所によれば獨逸に注文のボイラーも最早同國ハンブルクを積荷出帆されたそうだから遠からず着連すべく右器械は日本に東京神田青年會館に使用せる幼稚なものが一つあるのみで先づ東洋には大連だけ完全なものが据ゑられる譯である右は溫水並に濾過機械であつて一度浴槽に貯へた水は永久に使用される最初の据付に費用を要するも將來においては却て經濟的なるオツトマンヤー式である從つて浴場の設計を變更するものとしては最初ボイル室として有つたものを濾過池と變更しボイル、ルームを增設するだけである光線の工合等も世間の人々には彼是れいふ向もあるが實際を見た人々は最も適當として居ると折角玆まで漕ぎつけた浴場建設であるから先づ以て一日も早く實現させ一般市民に公開するやうに急いで貰ひたい。

北京に勞働學校の新設

北京高師敎育革新社で勞働學校を創始する計畫は熟成し二月十日午後三時高師の雨天體操場に於て入學式を擧行した入學者には少年もあれば老人もあり二百名以上の數に上り同日式に臨み得たものは約百名程であつた式が始まるや式順に從つて先づ校旗に三鞠躬の禮を行ひ（校旗は正方形で其中に赤丸を畫きその赤丸の下に一つの斧と一つの錘を畫いてある）次で司會者が該校成立の經過及び目的の概略を報告した其目的は第一勞働者日常生活上の知識增進、第二勞働者職業上の知識增進

第三勞働者をして其自身の價値と人類文化上の關係を自覺せしむる事である右了りて高師教務主任程時奎氏の演說があつた其大要は勞働學校を開いたに就て諸君の注意を願ひたい事は本校は勞働者の財產上に於ける平均を求むるよりも勞働者の精神上の價値を高むるが目的で之は歐米諸國の市民大學に於ける廣義の勞働教育主義に據るのである云々其後高師の校友及び勞働學校新入學生の演說があり式が終つたのは四時半であつたさうだ。

國立體育研究所を設立

文部省の豫算項目中首尾好く大藏省の查定會議を通過した國立體育研究所は總額四十三萬圓で五年間の繼續事業である是れは夙くの昔英、佛、米、白其他の文明國が巨資を投じて今日の立派な歐米人の體力を築き上げたもので戰後總ての事が國際的になつたのに鑑み我國も體育が國力の發展の一要素たるを覺り節約を高唱する政府が特に此新事業を重大視して議會に其豫算を提出する事になつたのだ右に就き文部省吉田衛生官は語る。

國民體育研究所敷地は多分代々木の近傍に極るでせう是は各國共非常に力を注いでゐる施設でアンなに財力の衰へて居る獨逸でさへも千九百二十一年伯林郊外エスパンドに體育大學を建て白耳義は今年二月大學卒業者を集めて最高體育研究所を起した其の組織、內容設備、豫算等は模範的であるから外務省に依賴して近々參考書類を取寄せる筈になつてゐる米國は文部省に體育局を設け一層力を注いで居るが就中英國は最近四億三千萬圓の巨費を之れに活用してゐる在佛大使館武官から參謀本部に寄越した報告によると佛國陸軍ジョーピール學校では文部と合同で體育について研究してゐるが此所には有名な生理學者や其他各方面の學者が居る而して年々立派な體操教師を養成し有益な研究發表もしてゐる又小學生に關する研究も完成された國民保健の價値は各國共大いに之れを認め就中米國は健全者が七十%なるに對し日本は三十五%だが米國は猶も力を注ぐ事を怠らない之れに反し日本では年々徵兵檢查の成績が惡く體力が減退しつゝあるされば我國の地方教育會醫師會其他の方面から夫に關する建議や決議が澤山來る併し悲しい事に我國は未だその基礎が何にも無い體育研究は國力發展の基で教育、生產國防の三つの方面を基礎とするが第一は教育的にやるのが大切だ獨逸がミリタリズムに立脚した爲め反對の悲運を招いた如く此の方面から立脚したものではいけない故に我邦の汎ゆる方面の學者を委員とし榮養、睡眠、發育其他の疾病に關する諸方面に亘つての研究を旨とする組織とするが從つて其の委員の任命を見た上で具體化するのであらうと。

大連にも愈々少年團組織

大連に少年團を組織したいとは伊佐市助役等が豫てからの希望であるがそれが愈大連奬勵學會發企の下に大連各小學校在學生を以て組織する運びになるらしい右に就き奬學會當事者は語る「內地では既に早くからやつて居るので大連が獨り取殘されて居る形である服裝を何うの斯うのと大仕掛けにしたのでは種種故障も起ろうが現在の服裝で結構だ各學校の方を纏むれば容易に出來ることであるが今日まで其處まで手が屆きかれたと言ふのも實際である少年團を組織して多少なりとも社會的な活動をなしめることは案外良好な效果が擧がるばかりでなく兒童自身の非常な社會的訓練にもなるのであるから此事は案外早く進捗して間もなく實現するに至るだらう。

少年團の活動の範圍ですかそれはまだ組織することの確定しない內に言ふのは可笑い事である內地の各都市で行はれて居る程度で其

活動を待つて居るものが大連では相當に多い第一左側通行の如き幾ら警察が血眼になつて宣傳しても宣傳甲斐が見えないが今それを少年團の手でするこ相當効力がある大連は數千人の兒童を有するがそれ等の登校退校のとき左側厲行の小旗でも翳して兒童自ら範を垂れながら違犯者に優しく注意して通ることにでもなれば餘程の横着者でない限り之れに從はずに居られないと言ふものだ」と。

櫻楓會東京支部の活動

一千の會員を有する櫻楓會東京支部は獨立した從來東京支部以外の地方支部は獨立の立場で目醒しい活動をしてゐたがお膝下の東京だけは本部直營でコツコツやつて居たのである從つて事業も託兒所以外に目ぼしいものは先づなかつた本年は獨立と同時に今迄の宮下金杉兩託兒所は勿論擴張しそれに巣鴨宮下の特殊夜學校に改善を加へ新たに子供の信念問題の研究、衣食住の研究を開始するさうである經費は本部の支出を合せ年二萬餘圓を要するさうで之が資金募集のため先ごろ目白の會堂でアインスタイン博士の相對性原理その他の映畫大會を催した右につき幹事の長澤トシ子さんが語つたところを記さう。

從來から家庭改良と社會奉仕を標語として進んで來てゐるのですが事業は本年から一層擴張し熱心にやつて見ようと云ふことになつてゐます中でも特殊夜學校は近所の晝間暇なき若い婦人達に裁縫、英語、家事、算術を教授し土曜は授業をやめて料理の講習、臺所の見學、音樂の會等を催さうと思つてゐます會社に勤めたり家庭に働いてゐる若い婦人達の切なる修養欲を滿たす設備をすることは私達の今日の急務だと思ひます實際の修養としての臺所見學などは會員中にも相當設備の行屆いた家があるので好都合です子供の信念問題研究は會員の子供と學校附近の子供を毎日曜に集め大抵母子相集まつた時に其の研究をするやうにしてゐます毎月一回の子供大會も隨分效果があるやうです行く行くは市内各區を廻り形式拔きの型に箝まらない日曜學校風に行かうと思ふのです會員大多和たけ子さんなどは熱心な研究指導者です衣食住の研究も順序よく致して行かうと思ひます」と因みに經費は本部の支出を合せ年二萬餘圓を要するさうで之が資金募集の爲め去月二十七八の兩日目白の講堂でアインスタイン博士の相對性原理其の他の映畫大會を催したさうだ斯樣にして活動を開始した櫻楓會東京支部は社會的にも家庭的にも相當貢獻する事だらう。

大連市に特志看護婦人會

日本赤十字社大連支部では日に日に春めいで來るので大連管内各會屯方面の巡回診療其他の仕事に大いに活動すると力瘤を入れて居る處が内地にしても朝鮮にしても支部のある都市で特志看護婦人會の組織されてない土地は殆どない奉天にしても旅順にしても皆相當な團結が出來て居るのであるが大連には未だ夫れがない是れ支部の活動が足らぬことを物語るものであるが門井支部長は語る。

努力は過去に於てもして居るが猶之からが本當の努力だ大連の日本婦人々口は幼少者を加へて二萬二千二十八名が最近の數であるが内既に社員に加盟して居る數は僅かに三百五十五名であるそれで婦人會の組織に奔走して與れる餘裕のある人と言ふのは三十名あるかなしで中産階級以上の婦人連が殆ど加入して居ないと言へる狀態である篤志看護婦人會は社員をもつて組織することになつて居るのであるから先づ加盟されてない中産以上の夫人連に加入して貰ひそれから大いに特志看護婦人會を組織し支部として最も意義ある活動を不斷に於てしたい考へてゐると。

東巷西街

◆現在の社會の亂脈は大きく言へば戰爭といふ大地震のためで小さく云へば變態的經濟の祟りだ◆彼の蜃氣樓的好況の時代に噴火山上の舞踏をやらなかつたなら如何に時代が變つたとて社會が斯んなに亂れる筈はない◆銀行の破綻、會社の倒潰、專務その他重役等の犯罪は皆此間に醸された向ふ見ずの報ひで要するに自業自得だ◆手短かに申せば今日の社會は病人と病的團體の寄集まりで滿足のものは殆ど無いと云つてもいゝ位だから亂脈になる筈だ◆健全分子が尠く不健全分子が多ければ之が集團たる社會の不健全となるは當然で二に二を加へて四となるが如しだ◆大連某信託の專務が縛られて段々糺明して見ると盛んに泥を吐いたといふ事だが泥池の鮒だから泥を吐くに不審はない◆吐かれた泥の中には羽織ゴロ、搖り記者、惡德文士など云ふ大分毛色イヤ地色の變つたものも有るさうな◆掃溜には蠅が湧き糞壺には蛆が生くから臭い物に臭い者が寄るのは當然だが斯うして社會の廓淸を計るべき言論界までが泥池の如く濁るのは悲しむべき事だ◆元來滿洲には新聞や雜誌が多過ぎる奉天に邦字新聞が三ツあつて鼎足の形をなして居るのは壯觀と云へば壯觀だが實は二ツ位あれば澤山である◆此の二三年來大連に雜誌がウンと殖ゐたのも一面社會の複雜化を反映したものと云はゞ云へ之れもチト餘計過ぎる◆言論事業は單なる營利事業でなく雜誌發行の如きは最も困難な仕事で確實な財源がないと苦し紛れにツイ搖つたり强請つたり脅したりの惡德を敢てする◆亂脈の社會は穴だらけ個人や團體は傷だらけで誰も彼も脛に傷持つと來ると其の穴や傷に油虫が付いて惡血を吸ふ◆蛭に惡血を吸はせると腫物が癒ゐるなど申すが油虫に吸はれるやうな惡血の出る傷は中々以て容易に治らない◆折角出來た言論機關が掃溜の蠅か糞壺の蛆か但しは他の惡血を吸ふ油虫とあつては論外だ◆口や筆では雪を炭とも鷺を烏とも何うとでも言ひくるめ

られ樣が社會の亂脈と共に言論までが斯う紊れては社會の廓淸など迚も望まれぬ事である◆更に譬ねて言へば彼等は天水桶の孑孑の如きものだ濁つた桶の水の中を一上一下して跳ね廻つた揚句が蚊になつて他を螫す◆蠅や蚊は惡疫を傳播する害虫だから彼等が文々唸つて飛び廻れば飛び廻るほど惡疫猖獗を極めて不健康の病的社會は彌が上にも不健康となる◆樹林保護のため害虫驅除の必要があるとすれば社會保健のため斯樣な害虫然たる惡德分子も驅除掃蕩の必要があらう◆と甲が力めば乙は澄ました顏でナニさう心配したものでもない優勝劣敗自然淘汰の作用で其中には型が付くよと言ふ◆處がその自然淘汰といふ奴が實際にはなか〱調子好く行はれない惡玉榮ゐて善玉亡ぶといふ結果も往々にして顯はれる◆毎度申す事だが惡貨が良貨を驅逐すると云ふグレシヤムの方則は實際社會の上にも慥かに行はれて居るのである◆需給の增減關係より生ずる物價の高低は之を成行に放任して置けば何時かは平準點に歸着するだらうが何事も社會的に複雜化した今日はさう放任して置けない◆そこに物價調節の必要があるとすれば社會調節のために惡貨イヤ惡德分子を退治するのも社會全局の保健上已むを得ぬ事だらう◆蠅を買上げたり叩き殺したりするのは餘り蠅が殖ゐると蒼蠅いと共に衛生上危險であると認めるからではない乎◆野犬も時々撲殺しないと狂犬のために狂水病が流行し個人に危害を及ぼす事になる◆現在社會の病態は過去の狂歌亂舞が原因で大分根が深いから一朝一夕に治癒し難いが此の病氣から副生した蠅や蚊や油虫のやうなものを餘りに跋扈させるのは好くないことだ◆泥池の鮒が泥を吐いたら其の泥には恐るべきバチルスが含まれてあると信じて然るべしだ◆社會の缺陷は種々の方法を講じて之を修補すべきであるのに其の缺陷に乘じて惡い事をする者が多くなつては一日と雖も社會の安寧は期せられぬ◆羽織袴を着けた芝居でする辨天小僧のやうな者が多くなるのは厄介だ。

動搖の多い社會

官吏は動き易いもの會社銀行等の支店長以下勤め人も動き易いもので本年に入つてからも既に動搖があつた▲正隆銀行の取締役永瀧久吉君が去つたのは昨年の末だが其後に始終一貫して居る川澄末吉君が坐つた川澄君だけは萬代不易にしたいものだが偖てどうなることとやら▲鮮銀大連支店長の小西春雄君は二月に入つて去り其後に井内勇君が來たスルと間もなく着任後まだ二年程にもならぬ正金支店長の小林和介君が去ることになつた▲滿鐵にも小林經理部長が罷めて其の後釜に朝鮮總督府遞信局の計理課長であつた遠藤達君が來ることになつた▲滿鐵の主席理事島安次郎君も罷めると云ふ噂があるし其他理事以下高級社員にも多少の異動があるかも知れない▲關東廳には淘汰が行はれる事になつたが大頭株はどうか元來動き易い性質のものだから近く又何んな變化があるか解らぬ▲異動は止むを得ないが斯う頻繁に動いては落着いて仕事が出來なくなり隨つて事業の能率と成績を擧げることも困難になる▲そこで滿洲に新社會新鄉土を建設する使命はどうしても永住土着的人物が背負はねばならぬ事になるが其の永住土着的人物が甚だ少なく財界反動後の大採めで更に一層少くなつた樣だ▲斯うして滿洲の社會は絕えず風浪の襲ふところとなり落付きと親しみを失ひ何時もグラ〳〵して安心が出來ない▲腰を落付けて眞面目に働けと云つても斯んな有樣では何人も常に不安の念に襲はれて腰の落付ける筈がない▲新人が來てその新人が土地の事情と社會の呼吸を呑み込むまでには相當の時日を要するし舊人と新人との關係がシツクリ結ばれるのも烏渡やそつとの事ではない▲人間は誰しも個性を備えて居るから主腦部の人物が替るとその個性的變化によつて萬事に調子が變り在來者のために聊か勝手元が狂ふやうな事にもなる▲大なり小なり何事にも歷史があり傳統があるもので其の歷史と傳統のうちには惡いものもあるが善いものもある▲然るに新來者の中には其の歷史と傳統とを全く無視して自己の一存で勝手な切盛りをしやうとする者もあるので一層の動搖と混亂を來たすのである▲折角親しくなつてお互ひの心がよく融け合ひ偖てこれからと云ふ場合になつて其の一方の人に去られるのは厭なものだ▲犬でも猫でも馴れたものを手放すのは何となく面白くないものだ況んや情味漸く濃厚となつた人間同士が袂を別つといふは寔に心苦しい次第だ▲この心苦しさを屢々感ずるのは永住土着的人物でそれが惡く馴れて了ふと朝に吳客を送り夕に越郎を迎ふといふ彼の娼婦のやうな變珍奇林な心理狀態にならぬとも限らぬ▲運んだ相談も相手が替ると更に遣り代へねばならぬ事になり餘計な二重乃至三重の手數を要しあたら時間を空費し無駄な骨折を繰返すやうな事にもならう▲都市は人の出入交替の激しい處だが植民地の都市は別してそれが激しい殊に滿洲の社會はこの數年來人の異動とそれに伴ふ新陳代謝が激しく行はれる▲動き易いものが動くのに不思議はないが餘り激しく動かれては四邊が迷惑する滿洲における各方面の首腦者は少くも四五年は動かぬ樣にしたいものだ▲大正八九年頃から滿洲の社會は各方面に異動が激しく行はれ其の異動の波が大正十二年の今日に及ぶも猶ほ動いてゐる▲その一端は已に上記の如く現はれた此分では今年もまた出たり入つたりの轆轤首が流行するかも知れない▲新陳代謝といふと聞えがいゝが或る場合には替りまして替り榮えのせぬ樣なこともあり變つたゝめに惡くなる事もある▲何にしても斯う動搖が多くて社會に落付きといふものが乏しくては何うにも斯うにも遣りにくゝて困りますタイ。



□小說で無い實話□

嗚呼這の青年

裾野山人

夫婦の間に子供がないのは淋しいものだが、私の家庭もその部類に屬する方で、その結果、小鳥を飼つてみたり、花卉を栽培してみたり、それから青少年少女を世話してみたり、いろ〳〵と試みて來、また試みつつある。之れも自己の本能慾を充たすがためと云つて了へばそれ迄だが、さうして居る間には、樂しいこともあれば苦しいこともあり、愉快なこともあれば不愉快なこともあり、或はまた意外な智識と經驗を得ることもある。併し自分の子でない他人の青少年少女を世話するのは面倒なものだ。

朝鮮にゐた時も、妻と相談して二三の青年を世話したが、此の滿洲に來てからも、今日までに一少女と五六人の青年を家において世話した。此うちの一少女は既に他に嫁し、一人の青年は大阪に行つて一廉の商人となり、一人は奉天で現に新聞記者をして居り、他の二人は大連の實業界に入り、その事務員として孰れも眞面目に勤めてゐる。餘財ある身分ではなし、私も妻も行屆かぬがちの人間であるから、世話をすると云つたところで、固より滿足なものではないが、それ等の青少年少女がそれ〴〵の方面に發展して一身一家を齋ゐて行くのを見ると、自分の子供が良くなつたやうに思はれて何となく嬉しいものだ。

滿洲では今日までに僅かに一少女と五六人の青年を世話した丈だが、成功あれば失敗もありて、此うちの

二青年には全然失敗した。その一人は大正五年頃に酒と女に心を狂はし、當時私のしてゐた事業の金を費ひ込み、事發覺するに及んで神戸に失踪した。今一人の青年はツイ先頃まで宅元において妻と共に我子のやうに可愛がつてゐたSといふ徵兵檢査前の男で、根が怜悧の質なので、私の現在遣つてゐる仕事を手傳はせてゐたが、可なりに役に立つた。然るに此の青年は竟に邪道に踏込んでしまつた。

S青年の鄕里は福岡縣の×××市で、彼の親しく私に語つたところに依れば、彼は早く父を喪ひ、母は間もなく再緣し、家庭の具合が非常に面白くないので、十七歲のときに故鄕の家を飛び出して此の大連に來たのであると云ふことだ。彼は淚を流して此事を私に語つたので、私はそれに動かされ、彼がまだ私の家に入る前の大正十年中、當時彼のしてゐた小さな雜誌の手傳ひをなし、筆を執つて援けた外、雜誌發行費の一部にも多少の援けをした。其頃から彼は私に懷き、度々私のところに來、竟には手紙で『あなたを親と思ひますから可愛がつて下さい』とまで言つて來た。筆蹟も年に似合はぬ巧みなもので、その手紙の文句も可なりに上手に書いてあつた。子供のない家庭の淋しい私は此の手紙を受取つてから一倍S青年が可愛くなり、我子のやうに思はれてならず、彼のためには出來るだけ竭さうと決心した。

當時S青年は大連市××町の某商館に勤め、旁ら小雜誌を發行してゐたのだが、玆に圖らずも私を驚かせたと同時に失望落膽せしめた一椿事が起つた。それは昨年の三四月頃であつたと思ふが、此のまだうら若い私には子供のやうに思はれた青年が彼の知人の娘××子と手に手を取つて神戸に出奔したといふ一事で、之を聞いたときの私の腹のなかはでんぐり返へるやうであつた。一時は噓だらうとも思つた。併しそれは間違ひのない確かな事實で、當時S青年を眞身に世話してゐた今は旣に故人となつた某商館のKから電話で詳しく知らして吳れた。私は恰かも掌中の珠を取られたやうに失望してしまつた。

處が翌年の六月になつてから、S青年は再び大連に姿を現はし、そして私のところに尋ねて來た。愛らしい子供のやうな顏に暗愁がたゞよひ、非常に面やつれして、足部には怪我をして繃帶までした。私がどうしたのだと訊くと、彼は泪を流し聲を顫ませて『飛んだ間違ひを致しました、僕は女に誑されました、女の魔力に打たれて思慮分別を失ひ、商館のK氏が親切に戒めて吳れたのを聽き入れずに其の女と手を取り合つて神戶に走りました、そして女は薄情にも神戶で僕を捨てました、僕は全く欺かれたのです、之れですつかり迷ひの夢が覺めました』と卒直に包まず隱さず語るのであつた。私は氣の毒に思つた、まだ未成年者ではあるし、初戀の甘きに醉ふて血氣のあまり無分別をしたのであらうと、斯う思つて、深く咎める氣にもなれなかつた。相手の女といふはS青年より二ツばかり年上の出戾りの婦人であるさうな。

Sが神戶で困惑して居たとき、Sを知つてゐる大連某洋行の主人が商用で神戶に出向き、圖らずもSに遇つて事情を知り、さう云ふわけなら俺と一緖に大連に歸るがいゝと云つて、それで大連に戾つて來たのであるといふ。實は世話になつたKに詫びを入れて再び某會館に入るつもりであつたらしいが、Kがどうしても承知しないので、小雜誌を再刊しようか、何うしたものかと、それを私に相談した。不景氣の深刻になりまさり行く時節でもあり、資金のある譯でもなし、たとひ小さな雜誌でも、それを再刊するのは容易でないと思つたので、それよりもいつそ私のところに來たら何うだと話したら、S青年は非常に喜び、さうして下されば斯んな嬉しいことはない、早速お世話になりますといつて、其の翌日私の家に來た。

私の家に來てからのS青年は、朝は早く起き、夜は外出しても十時前に歸り、失策した身分だから謹愼しますと云つて、成るべく夜遊びをせぬ樣にし、宅のなかの掃除を手傳つたり、庭の花卉に水を遣つたり、萬事神妙にまめ〳〵しく努めた。私は彼を慥かに改心したものと信じた。私を親と思ふと云つた彼は私の家に

來てから一層私になづんだ。私はいよ〳〵彼を子のやうに思つた。私の妻もSさんは若いのに能く氣のつく賢い人だと云つて私と同じやうに彼を愛した。不行屆きがちの我々夫婦から、彼を滿足させたとは思つてゐないが、彼も我々夫婦の心づくしは十分汲み取つて呉れたことゝ信じてゐた。

S青年が私の家に同居したのは昨年の七月で、十月頃までは右の通り神妙だつたが、十二月にかけて時々夜遲く歸ることがあり、十一時過ぎになつても歸らないので已むを得ず戸を締めてしまふと、翌朝ひよつくり歸ることもあり、それにそは〳〵して何となく擧動の落付かぬところがあるので、私は心配し出した。事務の主任をしてゐるNにも話してそれとなくSの樣子を探らした。

私は三度に一度は苦い顏もした、小言も云つた、訓戒もした。『まさかまた女が出來たわけでもあるまいと思ふが、君は已に苦い經驗を嘗めたのだから、失敗を繰返してはならぬ、咽喉元過ぎて熱さを忘れてはならぬ、君は私に悔ひ改めると言つたが、その誓ひを破らぬやうにして呉れ、君はまだ徵兵檢查前の若い身空だから、二十五歳までは青年修養の時代と思つて、眞面目に勉强したまゑ、及ばずながら君のためには力を添ゑる』と或時泌々話したら、S青年は『御心配をかけて濟みませんが、間違ひを再びするやうなことは決して致しませんから、此點は御安心下さい』と言つた。私はさもあらうと思つた。

ところが本年の一月に入つてS青年の祕事が段々明白になつて來た。某銀行に勤めるNといふ女と親しくなつた事、手紙の遣り取りの激しい事、屢々會見するといふ事などが私に分つた。N女から來た手紙も私の手に握られた。そこで私はS青年にその女から來た手紙を示して『この婦人とはどんな關係があるか』と訊くと、彼は下を向いて低い聲で『單に交際してゐる丈です』と答ゑた、『そんなら念のため此の手紙を私の面前で開封して見せないか』と言ふと、うぢ〳〵してどうしても開封しなかつた。それで私は怪しいと睨んで

しまつた。同時に私は自分の子が魔道に引入れられたかの樣に悲しく愛はしく何ともいへない苦惱を覺ねた幾たびか溜息を吐いた。また魔がさしたか、今のうちに何とかして早く魔を拂ひのけたいものだと、それはかり考ねた。一月の末には此事で碌々眠られぬこともあつた。

S青年は天才肌の男で、感激性に富み、何處かにロマンチックでそしてセンチメンタルな處があり、文藝に趣味を有し、年が年だけまだ本物にはならないが、一寸した美文を書き、創作も物した。その文章のうちには私の思ひも寄らない巧い文句を使ふこともあつた。現在私のしてゐる仕事を手傳つて貰つたが、それもハキハキと手際好く運び、私の先輩と仰ぐK先生も此の青年はなかなか役に立つといつた。だが一面は感情に走り易く、往々理智の光を曇らす事あり、現代青年の陷り易い軟文學に耽る傾向もあり、意志の薄弱なところも見ゑ、そこに彼の長所と共に彼の短所があると私は思つて居たのである。

そこで私は彼に硬敎育を施す必要があると考へ、食事を倶にする時、機會のあつた時、種々の偉人や義人の雄々しい話をして聽かせるやうに努めた。また或時はエレンケイや厨川白村の戀愛至上主義を反駁し、戀愛は男女二人間限りの愛で範圍が狹い、元來愛なるものは個人的より家庭的へ家庭的より社會的へ更に進んでは世界的へと延長し得べきもので、愛の極致は眞の信仰に入る、眞の信仰に入つて博愛となり人道となり正義となるのだ、故に愛を擴大すれば男女間限りの小さな愛に囚はれる筈はない、此の小さな愛のために義理を缺き人情を無視し親や兄弟や先輩や知人に迷惑をかけるのは間違ひだ、それは我儘だ、戀愛は神聖なりなど云つて相愛する男女二人のみが仕たい放題に勝手な路を歩くは反社會的行爲だ、更に大なる愛のために小なる愛を犧牲に供せねばならぬ場合もある、國家に一朝事ある時は、親をも妻をも子をも捨てゝ戰場に赴かねばならぬではない乎、小我を克せざれば大我に生きず、眞の宗敎的信仰に入るのも同じだ、此故に釋迦

は王位、珍寶、眷族を捨てゝ獨り超然として檀特山に入つたのだ、また此故に基督も親を捨て妻を捨て子を捨てゝ我れに來れと言つたのだ、斯う大きく考へて見たら、苟くも當世に志を抱いた青年は異性同士間に限られた甘つたるい蜜のやうな戀愛などに耽溺することは出來ない筈だと、斯んな理屈をいつて聽かせた事もある。此の場合S青年はハイ〳〵と云つて謹聽するのを常とした。

Sは音樂を嗜きだつた、殊に蓄音機が嗜きのやうに思はれた。子供のない私等の家庭にSが來てから何となく晴々しくなり、七十近い叔父と妻と女中だけで淋しかつた家庭にSが來て蓄音機が出來て大分賑かになつた。Sは分けても浪花節が嗜きで赤穗義士の事などは殆んど暗記してゐた。そこで私は義士四十七士の話をもなし、十八歳の大石主税が父の良雄と共に許嫁の娘と別れて生前寵愛をうけた亡君淺野内匠頭の仇を報じたのを何んと思ふかと、暗にそれとなく彼を諷刺した事もある。

然るに私の苦心は總て水泡に歸した、畫餅となつてしまつた。Sは私の前ではどこまでも女との關係を否定し、そして『唯下宿させて下さい』とのみ強要して已まなかつた。此時彼の祕事は私に大略分つて居たのだから、今彼を下宿させるのは虎を野に放つが如きものであると思つて、『下宿したければ下宿させることにもしようが、まあ〳〵最う少し辛抱しなさい、君が私の家に來た當初は二三年辛抱すると言つたではないかまた君は私を親と思ふと言つたではないか、私も隨つて君を子の如く思ひ、妻も君を愛してゐるから、私の家に來てまだ半歳になるかならない今日、急にそんな事をいふのは面白くないと思ふ』と云つて、頻りに辛抱させ樣としたが、Sは何うしても承知しないで、最近の二月七日、私が事務主任のNと彼のことについていろ〳〵と相談してゐる隙を窺ひ、彼は自身の革鞄をそつと持出し、それを携へて無斷に私の家を出てしまつた。私はそれを知つて大いに驚くと共に大いに悲しみまた大いに怒つた。

私は性來一徹の男で、一たび怒り心頭に發すると隨分猛烈なことをする、それで若いときは可なりの失策をした。モハヤ五十にならうといふ年配だから、今日は抑ね愼むだけの克己力を持つてゐるが、Ｓ青年の最後の措置には嫌となつて了つた。私の力と誠の足らないせいもあらうが、私はＳに對し手を換ね品を替ねて有らん限りの手段を盡くしたつもりだ。下宿といふ彼の要求を容れなかつたのは、戀の失策を再びする危險があると思つたからで、特に彼の自由を拘束しようとしたのではない。愛は春風の如くにのみ吹かぬ、時には烈風となつて吹くこともある、是れ嚴父の慈だ。斯る場合、彼を愛し彼を思ふてゐた私として、多少强い態度に出るのは已むを得ない。然るにＳは私の苦心を察しないで無斷に私の家を出たのである。何といふ非常識であらう。結果から云ふと、五十に近い私がまだ徵兵檢査前のうら若い青年に誑されて居たやうなもので、さう思ふと慚愧に堪ねない。且Ｓ青年は私の現在遣つてゐる仕事を手傳はせ、重なる各方面に紹介して置いたこともあるから、萬一の事があつて事業のうへに惡い影響を及ぼしてはならぬと考ね、彼を見限ると共に、早速彼との關係斷絶を汎く世間に周知せしむる方法を執つた。可愛さ餘つて憎さが百倍といふ氣持にもなり、不快で不快で堪らぬため、自然多少の猛烈手段をも執つた。

戀は人を盲目にすると云ふが斯くまでも盲目にするものであらう乎。一度ならず二度までも戀に突進して他を顧みないＳ青年の心は全く闇となつたのではあるまい乎。親と思ふと云つた私を捨て、子のやうに思つて彼を愛してゐた私に背き、私がさまぐ〵の心づくしを無にし、そして唯己れの愛する女のためにのみ行動するのが戀愛の極致であらう乎。若しさうだとすれば戀愛は我儘なものであつて決して神聖なものでも何でもない。情婦さへ笑へば他が悲しまうと怒らうと一向頓着ないといふのが戀愛の本義であるとすれば、戀愛なるものは不都合極まるものだ、反社會的の甚だしいものである抔とも思つた。

之より先、Sがまだ家出をしない時、郷里の母親から彼に手紙を寄越し『お前は今年徴兵適齢になるから此の機會に郷里に歸つて來い』といふ意味のことを言寄せて來た。彼はその手紙を私に見せた。私が『君はどうする考だ』と尋ねたら『郷里には斷じて歸りません、それで大連で徴兵檢査を受けるやうに既にその手續までしました』と云つて、その手續書を私に示した。そこで私は『君の家庭の事情が君にとつて面白くないとしても、親は親、母親としては君の身を案ずるのが當然だから、君が郷里に歸らぬとすれば、君の母親に安心の出來るやう私から手紙を出さう』と云つたら、彼は何分宜しく願ひますと言つた。仍て私は彼の母親へ宛て『S君のことは私が責任を以て引受けるから心配なさるな』といふ意味の手紙を出した。然るにそれから間もなくSは私に背いて私の家を無斷に出て了つたので、私は彼の母親に申譯のない事になり、何とも仕方がないから、事實の大要を述べ、詫びをすると共に、改めて斷はりの手紙を彼の母親に送つた。故意にした事でないにしても、Sは斯んな熱湯まで私に呑ましたのだ。

　Sの家出した後、私は何とも云へないうら淋しい感に打たれながら、衝動の激しい胸を抑ねつゝ靜かにS青年の性格を考へてみた。その折、浪六が新聞小説の最後だと云つて國民新聞に掲げてゐる『時代相』の八十八回目を載せた新聞が屆いた。此回に浪六は例の筆鋒で斯んなことを書いてゐる。

　青年文士、この青年文士といふ四字を冠せらるゝには、第一先づ總ての上に新らしいといふ事、たとひ新らしからずとも本人だけは強いて新らしがる事、第二は異性の愛に憧がれて戀は盲目なりといふ語を事實に行ふ勇氣なくとも無理に行はんとする事、第三は頑健なる身體よりも寧ろ天才的を意味する半狂的の神經質たるべき事、第四は世間を知らざる事、第五は物の輕重を辨へざる事、第六は事々物々に悲觀し悲鳴を擧ぐる事、第七は約束履行を殆ど權威なき恥辱の如くに考へて人事一切に責任觀念の極めて薄き事、第

八は耽溺を以て徹底と心得る事、第九は放浪性を帶びて常に絶わずブラ〳〵と無用に歩く事、第十は自己以外の人を呪ふべき嫉妬性を潜在せしむる事、凡そ以上の十件を具備して、加之に實際は臆病なるがため晝は犬に吠わられても飛上り、夜は鼠の物音にも顏色を變へて、すぐに青春の血が高鳴りすると叫ぶもの之を青年文士といふ。年齡は二十歳前後より凡そ三十歳に至る迄の間、また自ら文士と稱し他より文士と稱せらるゝは、いはゆる文學的に關して新聞の端くれか雜誌の一端に名を現はすがためにして、物質以外に超然たる態度を示しながら、内々は切賣り押賣りに原稿を持廻りて僅かの金錢にペコ〳〵頭を下げ（中略）、この文士の名を沒して落行く先は、朦朧として頗る存在の鮮明を缺きながらも、やはり戀とか愛とかの講釋に浮身を窶して、その實物を獲得せんがために殆ど寢る目も寢ずに狂奔的の結果、動もすれば臆病者の大膽なる行爲を人間自然の本能的と稱し、甚だしきは全地球の重量よりも河童の屁に似たる自己の戀を重きものと心得（中略）、たとひ相手の女に逃げられてもこゝが失戀の詩的なりと泣きながら嬉しがる工合（中略）、またこれ一種の時代病…………（下略）

青年Sの性格も何となく之れに似通つたところがあるやうに思はれてならない。

私が少し猛烈に出たので、窮鼠猫を噛むの譬わに漏れず、Sは反抗心を起して私に無茶苦茶なことを敢てしやうとした。そこで私も最後の決心をなし、一は懲らしめのため、行く處まで行こうと思つたが、Nが非常に心配するので、Nの心配に對して私も考わ直し、此事は思ひ止つて圓く納めた。斯くてS青年は二月十三日の朝大連を立去つた。郷里に立寄り、それから大阪に赴き、大阪で身を立てると云ふことだ。女とは一緒でなかつたらしい。S青年には流石の私も全く手古摺つた。彼の將來はどうなるだらう。萬事休焉となつた以上は、心配しても無益だが、何となく彼の行末が案じられる。

研究會の旨趣目的

滿洲社會事業研究會は其の名稱の如く研究を主とする間接機關でありますが研究と共にその研究の結果を發表し講演會その他の集會をも催ふし宣傳、鼓吹、報道、論評と相待つて實行促進に努力しますから直接に自ら實行しないでも漸次實行を促すことになります場合に依り又事業の性質によりては本會自ら實行するやうな事があるかも知れませんが本來の使命は間接的に助長、發達、進歩を計り社會問題に對する正しい理解力を一般に普及したいのであります夫れから本會は會員組織でありまして會員を別つて賛助員及び普通會員とし役員は會長一名、副會長二名、幹事長一名竝に幹事若干名で外に顧問・相談役及び評議員若干名を置くことに成つて居ます評議員は賛助員の中より選擧し其の任期は二年です評議員會は會長において必要と認めたるとき又は評議員五名以上の請求ありたるとき開くのです評議員會は今日までに既に四回開きました本會の經費は會費及び寄附金を以てこれに充て會費は賛助員毎月貳圓、普通會員同上壹圓です追つて沿線重要地に支部を設けます。

研究會の組織綱領

●油料子實……滿鐵調査課

之れは滿洲における大豆以外の油料子實について記載したるものにて調査報告書の第十八卷として發行せられたものである

◎新文化（創刊號）……大連市外文化莊新文化社より發刊されし漢文月刊雜誌で傅立魚氏の主宰經營に係る

◎滿洲日日新聞、遼東新報、大連新聞、泰東日報、週刊「極東」、日滿通信、滿蒙の文化、讀書會雜誌、新天地、海友、滿蒙實業彙報、滿鐵「調査彙報」、滿洲建築協會雜誌、滿洲公論、日華之貿易、滿洲經濟時報、關東新聞、赤陽、滿洲教報、聖德會々報、大連コドモ新聞（以上大連）◎順律報（漢文）旅順◎大陸日日新聞、奉天毎日新聞、滿蒙經濟時報、新滿洲（以上奉天）◎商業會議所月報、滿鮮縱横公論（以上安東）◎商業會議所月報（長春）◎貝加爾新聞（滿洲里）◎支那研究彙錄（北京）◎大乘（上海）◎山東公論、濟南日報（以上濟南）◎青島新報、青島實業協會月報（以上青島）◎京城日報、朝鮮新聞、朝鮮銀行月報、朝鮮及滿洲、青年（諺文）、新生活（同）（以上京城）◎釜山日報（釜山）◎平南毎日新聞、平壤商業會議所月報（以上平壤）◎臺灣時報、臺灣月報（以上臺灣）◎臨時産業調査局資料、滿鐵東亞經濟調査局經濟資料、東洋、支那、大鵬、大日本、經濟時論、東京商業會議所所報、日本佛教新聞、憲政、日華之實業、愛國婦人戰友、我が家（以上東京）◎紡績界（大阪）◎同志社時報（京都）◎横濱商業會議所月報（横濱）◎東亞經濟研究（山口）◎福岡日日新聞（福岡）

毎月一回發行

定價表

册數	定價	郵税
三箇月分	壹圓九拾錢	五錢
半箇年分	參圓八拾錢	郵税共
一箇年分	七圓五拾錢	郵税共

普通號六拾錢、特別號七拾錢

▲半年分及壹年分には特別號を含む▲誌代は總て前金拂の事▲郵劵代用は一割增

廣告料

等級	半頁	一頁
特等	四拾圓	八拾圓
一等	貳拾五圓	五拾圓
二等	拾五圓	參拾圓
三等	拾圓	貳拾圓

㊀三回以上は割引可仕候㊁年極めは特別に御相談可致候

㊂〆切りは前月二十日限り

大正十二年三月一日發行

發行人　山田武吉

編輯人　大內四郎

印刷人　太田信三

印刷所　小林又七支店　大連市大山通七十四號地

發行所（電話一四二六番）　滿洲社會事業研究會　大連市霧島町ヌ區十六號地　振替口座大連一二三九番

大連市監部通

東亞煙草株式會社

大連販賣所

電話二七三番

內地で活動する人も海外に發展する人も
是非讀まねばならね重要な面白い雜誌

月刊雜誌

大鵬

定價

一部 五拾錢
半年分 參圓
一年分 六圓

一部には外郵税貳錢

東京芝區南佐久間町二丁目三
(振替口座東京七七三二)

株式會社 拓殖新報社

大正十一年八月十五日（第三種郵便物認可）
大正十二年三月一日發行（毎月一回一日發行）

K.O

活版、石版、帳簿

和洋紙、板紙

荷札、海關申告書、約束手形、封筒、紙テープ、安全紙幣把、色分銀銅貨包、粉末給具、陸軍ノ陸圖、海軍ノ海圖、朱肉、トイレットペーパー、其ノ他

石版意匠（包紙 レッテル）調製

活字、印刷インキ、印刷木具類、印刷、製本諸材料、石版石、其ノ他

特約販賣品

- 星印名刺臺紙
- 堀井式謄寫版
- 太陽簿記インキ
- 空氣應用自動消火器
- 國柱印粉末消火器
- 邦文 歐文 タイプライター
- 素人用邦文小型タイプライター
- 酸素療器オキシヘーラー
- 洋蠟燭

大連市大山通

小林又七支店

電話 長四四二番 二〇四三番